

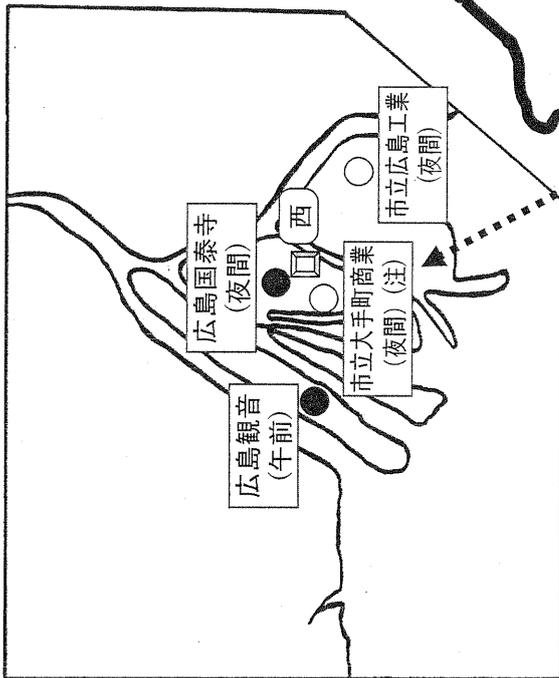
県立高等学校の状況等について

(ページ)

- 全日制高等学校配置図 (公立) 1
- 定時制・通信制高等学校配置図 (公立) 2
- 県立高等学校再編整備基本計画の概要 3
- 県立高等学校再編整備基本計画 (前期・後期) の取組状況 5
- 公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の
中卒 (見込) 者数の推移等 7
- 市郡別の中卒者数の推移等 (国・公・私立学校) 14
- 普通科, 専門学科, 総合学科の入学定員 (学級数) の比率の推移
～公立高等学校 (全日制) ～ 15
- 募集学級規模別 1 学年 1 ～ 3 学級規模の
都道府県立高等学校 (平成 24 年度) 16
- 平成 24 年度学級規模別の教諭等の状況等 17
- 平成 24 年度学級規模別の教科, 科目別の
教諭等の配置状況 18
- 県立高校間の連携推進事業 19
- 教職員定数の算定について
(文部科学省 HP 掲載資料からの一部抜粋) 24

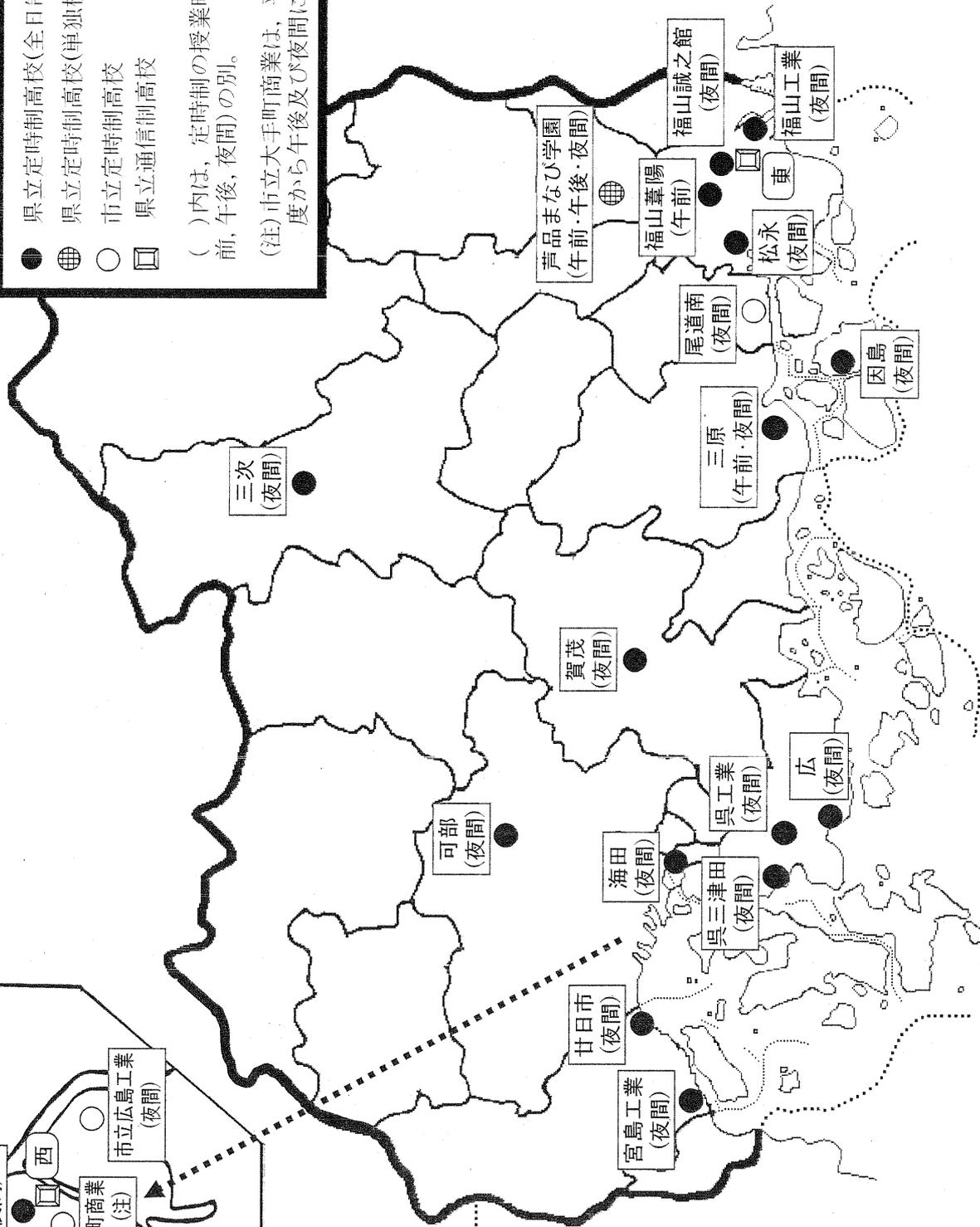
【平成24年5月1日現在】

定時制・通信制高等学校配置図（公立）



● 県立定時制高校(全日制併置)
 ● 県立定時制高校(単独校)
 ○ 市立定時制高校
 □ 県立通信制高校

()内は、定時制の授業時間帯(午前、午後、夜間)の別。
 (注)市立大手町商業は、平成25年度から午後及び夜間になる。



| 学校数 | |
|---------|----|
| 〔定時制課程〕 | |
| 区分 | 校数 |
| 県立 | 18 |
| 市立 | 3 |
| 公立計 | 21 |
| 〔通信制課程〕 | |
| 区分 | 校数 |
| 県立 | 2 |

県立高等学校再編整備基本計画の概要

広島県高校教育改革推進協議会答申

県立高等学校再編整備基本計画

特色づくりの推進

普通科

- ① 多様な進路希望に対応した学校づくり
- ② コースについては学校の提案を考慮

専門高校・専門学科

- ① 拠点校の整備
農業・工業及び商業の各学科については、地域的なバランスを考慮しながら拠点校化し、普通科や総合学科も含めた本県における職業教育のセンター的な機能を持たせるため、学科の改編を含めた教育内容の見直しを行うとともに、最新の施設・設備を重点的に整備
- ② 新しいタイプの専門高校<例>
 - 総合技術高校
複数の職業学科を置き、学科の枠を超えて科目選択できる専門高校
 - 情報科学高校
情報に関する専門学科と、情報に関する知識と技術を基礎・基本として学習する工業や商業等の専門学科を併せ持つ専門高校
- ③ 普通科に併設する専門学科
近隣の専門高校への統合や併設する普通科の教育内容の一部へ組み入れることなどを検討
総合選択制の専門学科については、必要に応じ学科改編

中高一貫教育校（併設型・連携型）

計画的・継続的な6年間の一貫教育を通じ、確かな学力の定着等を図り、生きる力を育む学校を設置

定時制・通信制課程

- ① 通信制課程を併せ持つ新しいタイプの定時制高校の設置
定時制課程と通信制課程の利点を活用し、週休日も含めて開講できる教育システムを提供する学校を、都市部へ設置
- ② 定時制独立校の設置
聴講生制度の活用など、地域に根ざした学習の場を提供する定時制独立校を設置
- ③ 全日制課程併置の定時制課程
単位制の特長を活かした教育内容を構築するとともに、一定の生徒数の確保が困難な場合、統廃合する

適正規模化の推進

適正規模化の背景

- ① 少子化の進行による生徒数の減少
- ② 小規模校化により効果的な教育活動の展開が困難



県立高等学校の規模及び配置の考え方(H11)

- 適正規模は1学年4～8学級
- 1学年3学級以下の学校については、近隣校との統合を検討

統廃合の考え方

① 1学年1学級規模の学校

当該学校の在籍状況(入学率など)、地元中学校からの進学状況(地元率など)等を勘案しつつ、統廃合を行う方向で具体的な検討を進める

② 1学年2学級又は3学級規模の学校

今後の生徒数の推移を見ながら、近隣校との統廃合を検討する
ただし、近隣に高等学校がない場合にあつては、1学年1学級規模となった段階で、前記①により取り扱う

③ 1学年4学級規模以上の学校

1学年4学級規模以上の学校であっても、スケールメリットも生かした新しいタイプの学校として、再編する場合などにおいては、近隣校との統合を検討する

実施期間 平成15年度から平成20年度までを当面の目標とし、再編整備の進捗状況を勘案しながら計画的に推進

広島県高校教育改革推進協議会答申< H13.10 >

県立高等学校再編整備基本計画< H14.3 > [目標年度: 平成15年度～平成20年度]

県立高等学校再編整備基本計画(平成21年度～平成25年度)

魅力と活力ある県立高等学校づくりの推進

特色づくりの推進

適正規模化の推進

普通科
 ◇コースを9校へ設置
 ○設置校の成果や課題を分析し、教育内容の充実を図るとともに廃止を含めた見直しを行う

専門高校・専門学科
 ① 拠点校
 ◇6校を指定、施設・設備の整備
 ○農業、工業、商業の各分野におけるリーディングスクールとしての役割をより一層発揮させる
 ○職業教育を推進するセンターとしての機能を充実させる
 ② 新しいタイプの専門高校
 ◇総合技術高等学校を設置
 ○複数の専門学科からなる学校としての成果や課題を分析した上で、既設校の改編による同様のタイプの学校を設置することについて検討
 ③ 普通科と併設する専門学科
 ◇4校6学科を廃止
 ○近隣の専門高校への統合や併設する普通科の教育内容の一部への組入れなど、必要な見直しを行う
 ○総合選択制の専門学科については、学科改編を検討

総合学科
 ◇12校を設置
 ○キャリア教育の視点に立った取組の充実や、生徒のニーズにあった教育課程の編成を図るとともに、普通科への移行を含めた見直しを行う

中高一貫教育校
 ◇併設型1校、連携型3校を設置
 ○広島中・高等学校に本県教育のリーディングスクールとしての役割をより一層発揮させる(併設型)
 ○6年間を通じた取組の成果を検証し、今後の在り方を検討(併設型)
 ○既設校の教育内容の充実を図るとともに、連携する中学校の進学状況等を踏まえ、今後の在り方を検討(連携型)

定時制・通信制課程
 ◇全ての定時制課程を単位制とし、履修形態の多様化・弾力化を図った
 ◇定時制の1校1課程を募集停止
 ○定時制既設校の成果を踏まえ、単位制の特長を活かした教育内容の充実を図るとともに、地域の実態等に配慮しつつ統合を検討
 ○通信制課程の高等学校が設置されている地域では、定時制・通信制課程を統合した学校を、交通至便な場所へ設置することについて検討
 ○通信制課程では定時制課程との併修等教育内容の充実を図るとともに、上記の定時制・通信制課程からなる学校への統合を検討

適正規模化の考え方
 県立高等学校の規模及び配置の考え方(H11)
 効果的な教育活動を展開する等の観点から適正規模は1学年4～8学級を踏襲

適正規模化の推進
 ◇9学級以上の大規模校16校の適正規模化、小規模校7校の生徒募集停止
 ○1学年8学級以下の維持
 ○適正規模化を推進するため統廃合を実施
 その際、中山間地域と都市部とにおける近隣校までの距離や公共交通機関の利便性等の相違にも十分に配慮

- 統廃合の考え方**
- ① 1学年1学級規模の学校
 当該学校の在籍状況(入学率など)、地元中学校の進学状況(地元率など)等を勘案しつつ、統廃合を進める
 - ② 1学年2学級又は3学級規模の学校
 今後の生徒数の推移等を見ながら、近隣校との統廃合を検討する
 ただし、近隣に高等学校がない場合にあつては、1学年1学級規模となった段階で、前記①により取り扱う
 - ③ 1学年4学級規模以上の学校
 1学年4学級規模以上の学校であっても、交通の利便性が高い地域等においては近隣校との統廃合を検討する

「◇」印はこれまでの実績 「○」印は今後の方向性

(資料編)
 ① 広島県高校教育改革推進協議会答申(H13.10)(抜粋)
 ② 県立高等学校再編整備基本計画(H14.3)
 ③ 専門高校・専門学科再編整備第1次実施計画
 ④ 広島県における高校教育改革の動向
 ⑤ 広島県の在籍児童生徒数減少率
 ⑥ 県立高等学校数・小規模校等占有率
 ⑦ 県立高等学校配置図

県立高等学校再編整備基本計画（前期、後期）の取組状況

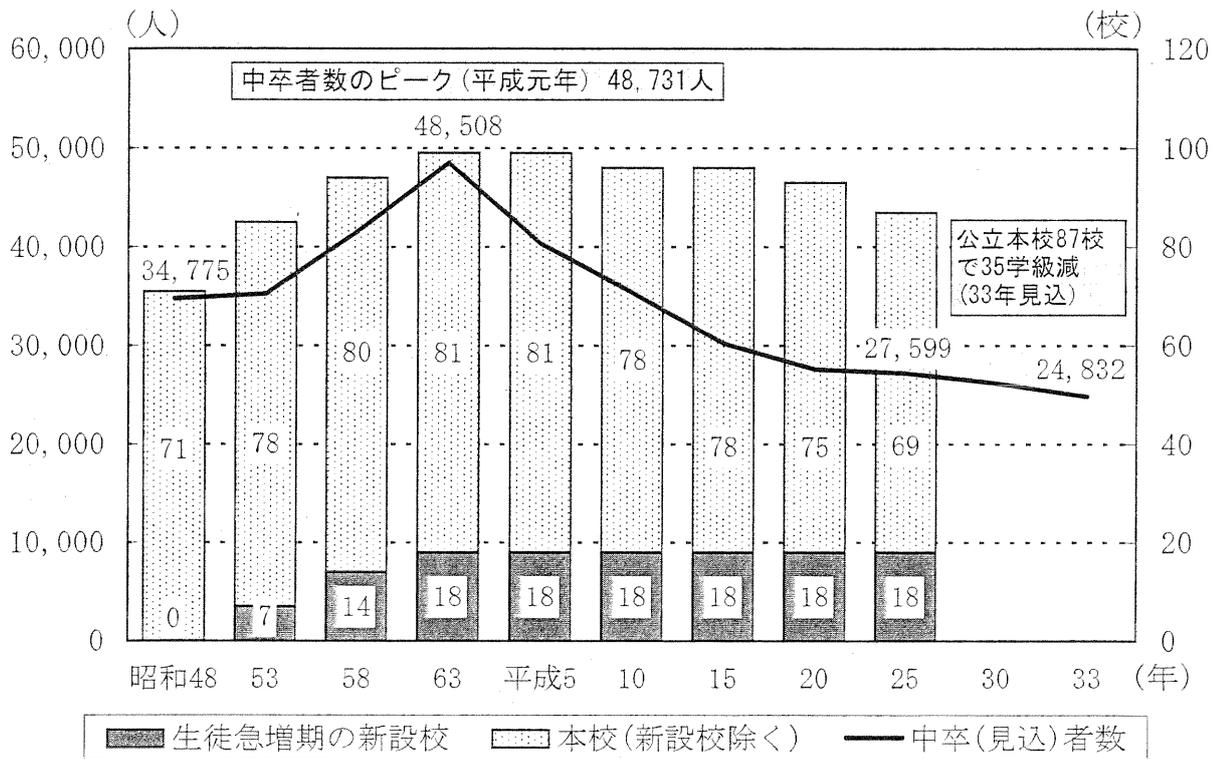
| 区分 | 前・後期 | 計画内容 | 取組 |
|---------------------|------|---|---|
| 特色づくりの推進 | | | |
| 普通科 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 学校の提案や全県的なバランスを考慮しながら、コースを設置する 複数コースを設置する新しいタイプの普通科高校の設置を検討する | ◇4校にコースを設置 H15 可部、三次、大門、祇園北 【参考】H13 広、呉三津田、忠海 H14 広島国泰寺、尾道東 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> コースを設置する各校の成果や課題を分析し、コースとしての特性を發揮しにくくなっている学校は廃止を含めた見直しを行う | ◇5校のコースの生徒募集停止 H22 広、呉三津田、可部、忠海、三次 |
| 専門高校・専門学科 ①拠点校整備 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 専門高校（農業、工業、商業）の拠点校化する（職業教育のセンター的な機能を持たせるため、教育内容の見直しを行うとともに、最新の施設・設備を重点的に整備する） | ◇6校を指定（H15） 農業：西条農業、庄原実業 工業：広島工業、福山工業 商業：尾道商業、広島商業 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 農業、工業、商業の各分野におけるリーディングスクールとしての役割をより一層發揮させ、職業教育を推進するセンターとしての機能を充実させる | |
| ②新しいタイプの専門高校の設置 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> これまでの学科の枠を超えた複合的な内容の専門教育を展開する新しいタイプの専門高校を設置する 総合技術高校の設置 情報科学高校の設置 国際高校設置の検討 | ◇総合技術高校の設置（H17 開校）及びそれに伴う専門高校・専門学科の適正配置 〈専門高校の生徒募集停止〉 H15 本郷工業、H17 尾道工業 〈専門学科の生徒募集停止〉 H17 賀茂（生活科学）、 河内（商業、食物調理、生活文化） |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 総合技術高校の成果や課題を分析した上で、既設校の改編による同様のタイプの学校を設置することについて検討する | |
| ③普通科に併設する専門学科 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 近隣の専門高校への統合、または併設する普通科の教育内容への組入れを検討する 総合選択制の専門学科は、学科改編を検討する | ◇専門学科の生徒募集停止 H15 廿日市（家政）、府中（家政） ◇専門学科（農業）の学科改編 H15 沼南（園芸デザイン） |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 近隣の専門高校への統合や併設する普通科の教育内容の一部への組入れなど、必要な見直しを行う 総合選択制の専門学科は、学科改編を検討する | ◇専門学科（農業）の学科改編 H22 世羅（農業経営） H23 吉田（アグリビジネス） |
| 総合学科 | 前期 | | 【参考】13校に総合学科を設置 H7 高陽東 H8 三次青陵 H9 大竹、至誠（H10～戸手（近隣校との統合）） H10 広島観音、尾道北、福山誠之館、松永、安芸、神辺、大崎海星、戸手 H11 因島 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 各校の成果や課題を分析し、総合学科としての特性が發揮しにくくなっている学校は、普通科への移行を含めた見直しを行う | ◇普通科への移行（1校） H22 大崎海星 |
| 中高一貫教育校 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 併設型及び連携型の中高一貫教育校の設置を進める | ◇併設型1校、連携型3校を設置 併設型：H16 広島中・高（開校） 連携型：H17 賀茂北 （【参考】H13 芸北分校、御調） |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> （併設型）広島中・高の6年間を通じた取組の成果を検証し、今後の在り方を検討する （連携型）各校の教育内容の充実を図るとともに、連携する中学校の進学状況等を踏まえ、今後の在り方を検討する | |

県立高等学校再編整備基本計画（前期、後期）の取組状況

| 区分 | 前・後期 | 計画内容 | 取組 |
|---------------------|------|---|--|
| 定時制課程 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 原則、単位制とする 通信制課程を併せ持つ新しいタイプの定時制高校を設置する 生涯学習機能を併せ持つ昼夜間開講の定時制独立校を設置する 全日制課程併置の定時制課程については、一定の生徒数の確保が困難な場合は、地域の実態等に配慮しつつ統廃合を検討する | <ul style="list-style-type: none"> ◇全ての定時制課程に単位制を導入（履修形態の多様化・弾力化） ◇定時制1分校・1課程の生徒募集停止 H18 大君分校, 竹原[定時制] |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 単位制の特長を活かした教育内容の充実を図るとともに、一定の生徒数の確保が困難な場合は、地域の実態等に配慮しつつ統廃合を検討する 定時制・通信制課程を統合した学校の設置を検討する | |
| 通信制課程 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 新しいメディアを活用した教材の提供や遠隔授業の在り方などについて検討する | |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 定時制課程との併修、ICTを活用した授業の実践等を推進し、教育内容の充実を図る [再掲]定時制・通信制課程を統合した学校の設置を検討する | |
| 適正規模化の推進 | | | |
| 全日制高校の適正な規模 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 全日制高校の適正な規模を1学年4学級から8学級とする <p>【参考】「県立高等学校の規模及び配置の考え方」（平成11年8月策定） 生徒自身が学習活動や部活動等において、互いに切磋琢磨しながら活力ある学校生活を送ることができること、多様な科目を開設し、生徒の希望に応えることができるような教育内容を提供すること、さらには、適切な学校経営を行うこと等の観点から、全日制高等学校の適正な規模を1学年4学級から8学級とする</p> | / |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 全日制高校の適正な規模を1学年4学級から8学級とする | |
| 1学年1～3学級規模の学校の適正規模化 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 学級規模別の統廃合の考え方にに基づき、計画的に統廃合を推進する | <ul style="list-style-type: none"> ◇全日制本校・分校7校の生徒募集停止 H15 豊平分校①, [再掲]本郷工業③ H16 倉橋① H17 三和① H19 高野山分校① H20 江田島①, 久井① |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域と都市部とにおける近隣校までの距離や公共交通機関の利便性等の相違にも十分に配慮しながら、学級規模別の統廃合の考え方にに基づき、計画的に統廃合を推進する | <ul style="list-style-type: none"> ◇全日制本校4校の生徒募集停止 H21 自彊②, 高宮① H22 白木①, 大和① |
| （学校間の連携） | | <p>【参考】「県立高等学校再編整備基本計画」に基づき、適正規模化を進めているが、その中で、1学年1～3学級規模の学校における教育活動の充実を図る観点から、学校間の連携の在り方を検討する</p> | <p>【参考】学校間の連携における連携校 H22 3グループ6校 H23 10グループ22校（うち適正規模校3校含） H24 11グループ24校（うち適正規模校3校含）</p> |
| 1学年9学級以上の学校の適正規模化 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> 段階的に規模の適正化（1学年8学級以下）を図る | <ul style="list-style-type: none"> ◇1学年9学級以上の学校の適正規模化 H14 16校^(※) → H17 0校 (※) 計画の対象期間の前年度 |
| | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> 今後は、1学年8学級以下を維持する | |

(注) 1 前期：平成15年度～20年度、後期：平成21年度～25年度
2 「取組」欄の丸数字は、募集停止直前の募集学級数を表す

■ 公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の中卒(見込)者数の推移



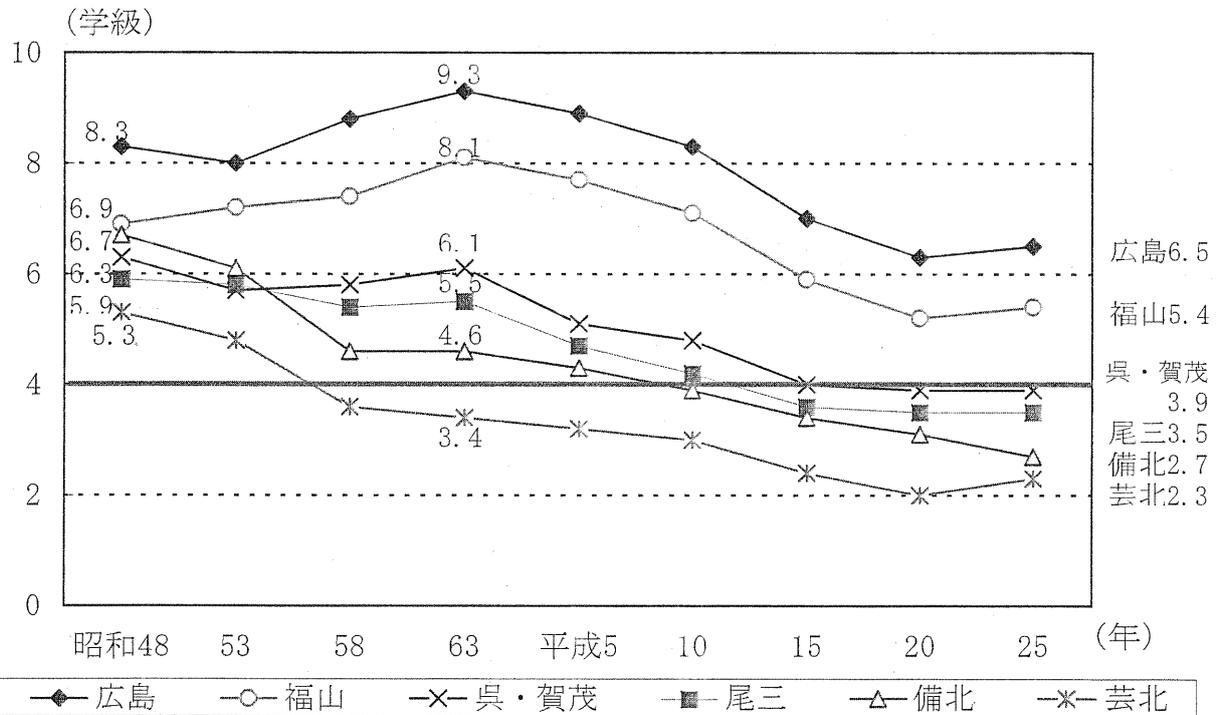
資料 公立学校基本数

注1 平成25年度以降の中卒(見込)者数は、平成24年度公立学校基本数の児童・生徒数から引用

注2 生徒急増期の新設校は次のとおり

[昭和49年]安芸, 五日市 [50年]安古市, 大門 [52年]高陽, 熊野 [53年]広島井口
 [54年]安西 [55年]安芸府中, 神辺旭 [58年]廿日市西, 祇園北, 高陽東, 呉昭和
 [59年]市立安佐北 [60年]市立沼田 [61年]安芸南 [63年]市立美鈴が丘

■ 旧6学区別公立高等学校1校当たりの平均学級数

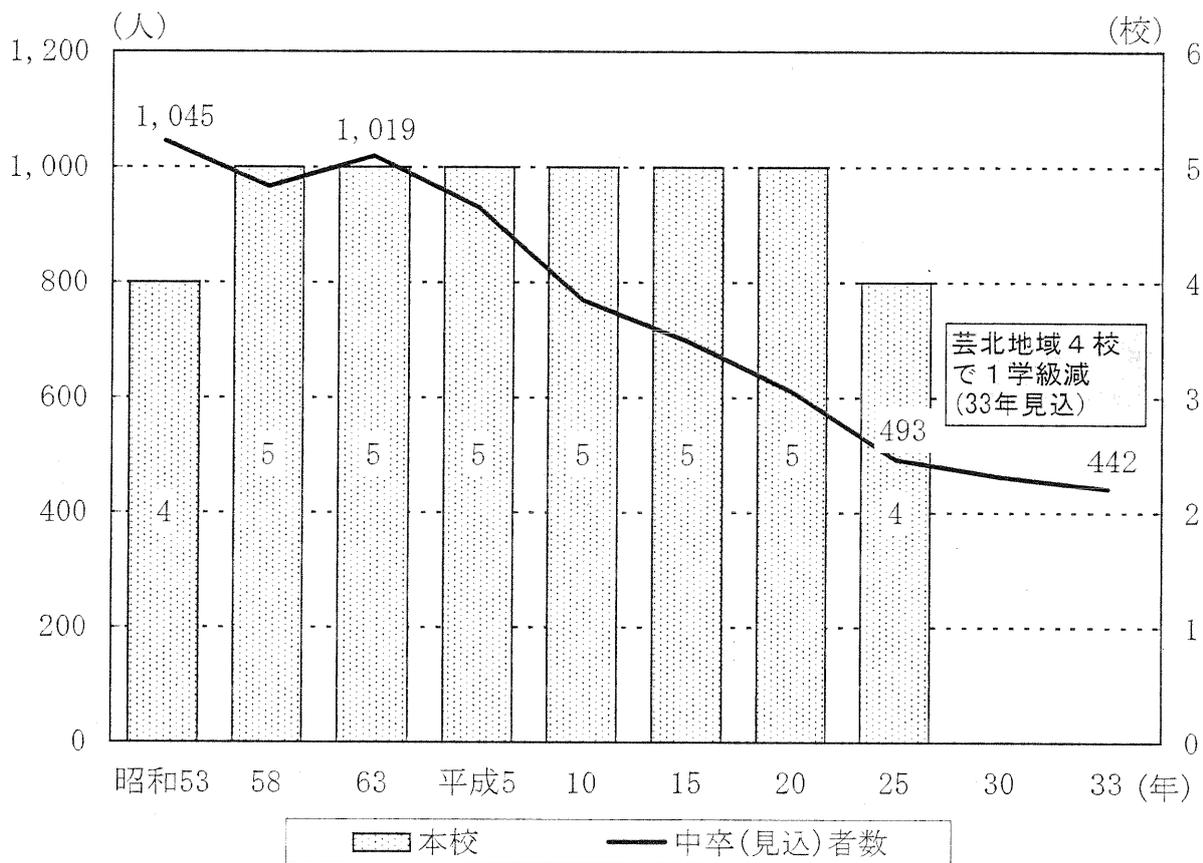


資料 各年度入学定員

注1 1校当たりの公立高等学校の平均学級数は、各学区の学級数を学校数で除して算出

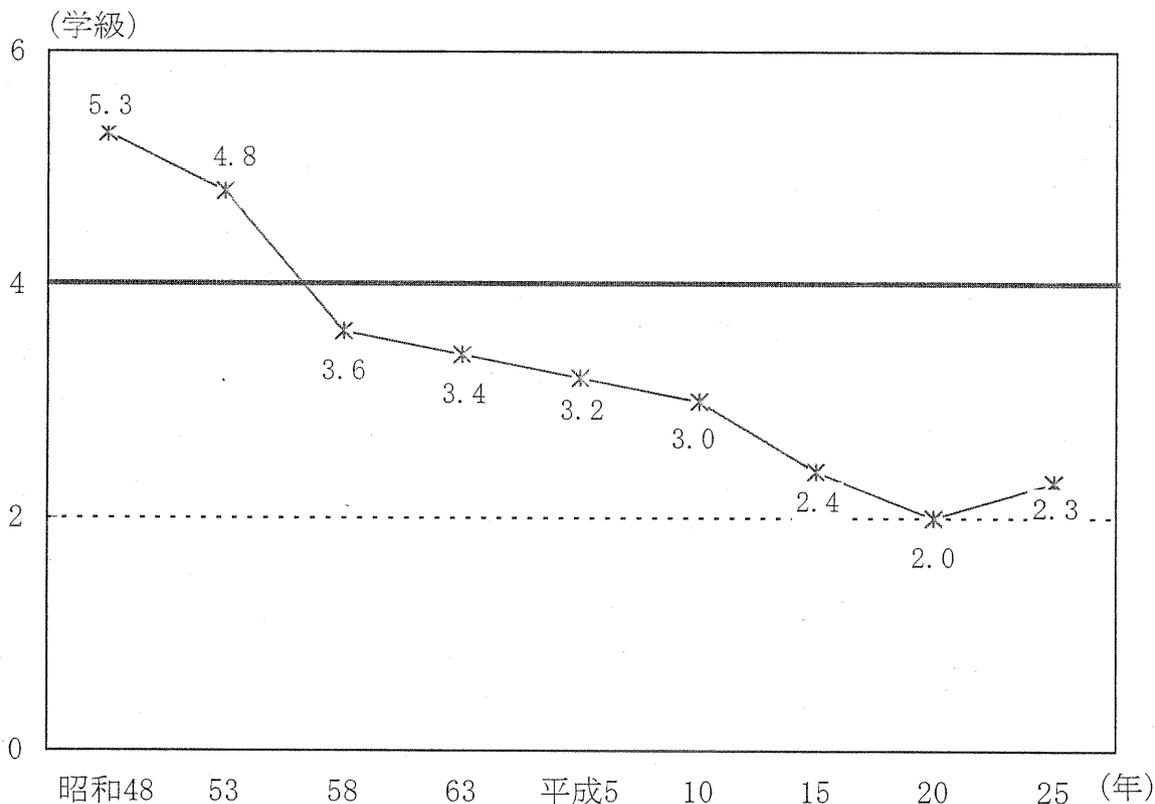
注2 芸北: 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町 広島: 広島市, 大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町 呉: 賀茂: 呉市, 東広島市, 江田島市 尾三: 竹原市, 三原市, 尾道市, 大崎上島町, 世羅町 福山: 福山市, 府中市, 神石高原町 備北: 三次市, 庄原市

■ 芸北地域の公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の中卒(見込)者数の推移

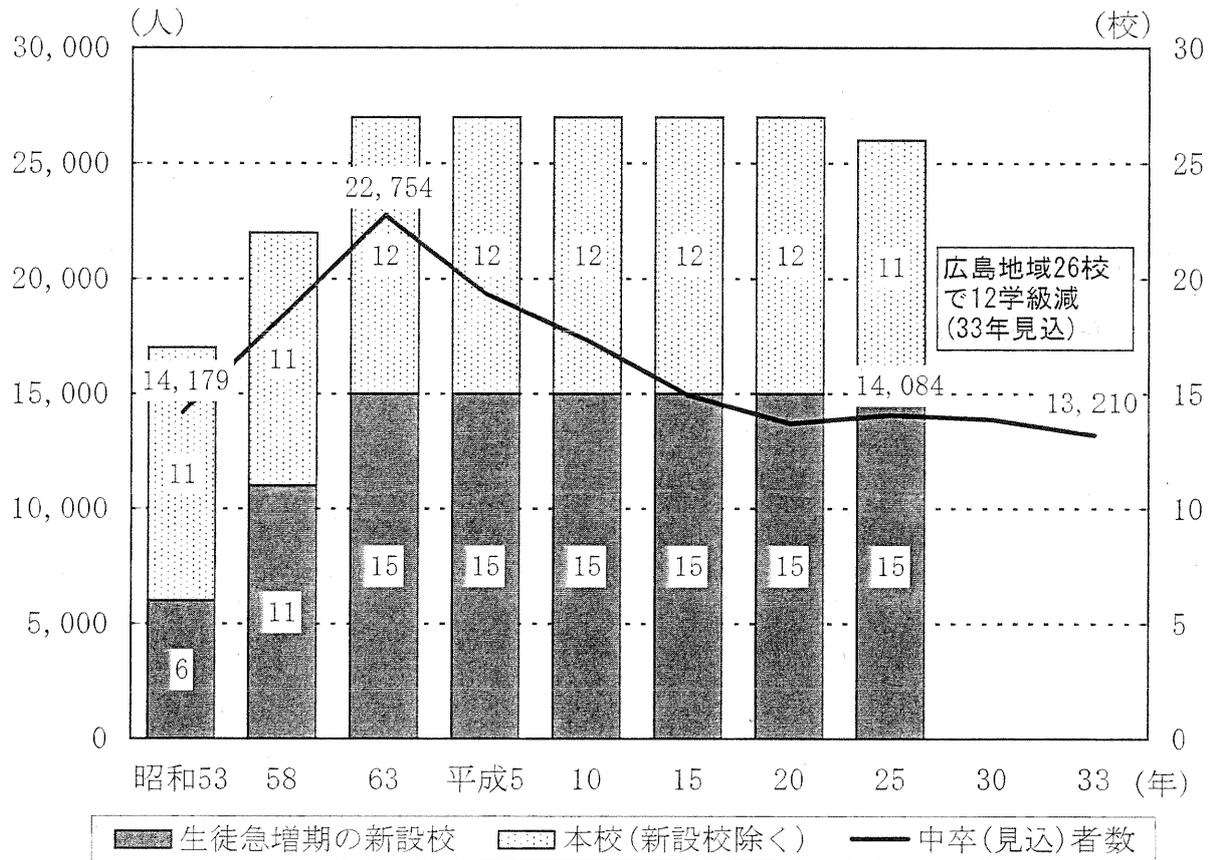


資料 公立学校基本数 (以下、同じ)

■ 芸北地域の公立高等学校 1校当たりの平均学級数



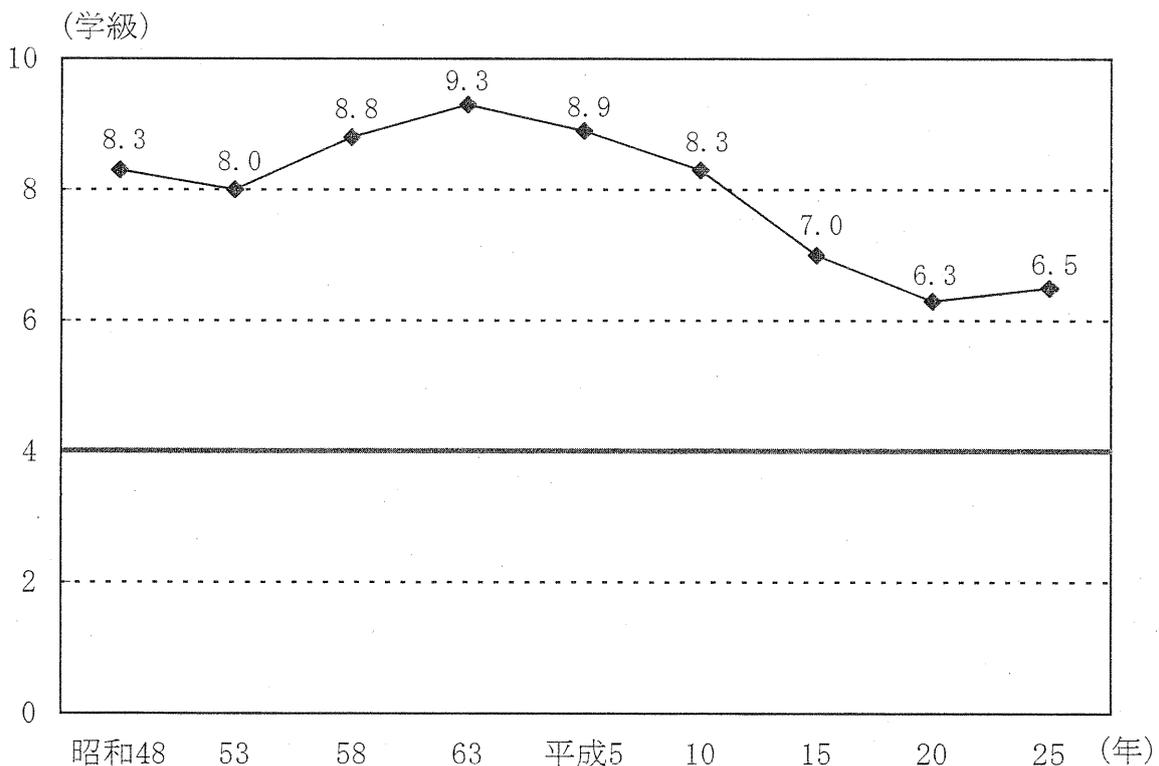
■ 広島地域の公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の中卒(見込)者数の推移



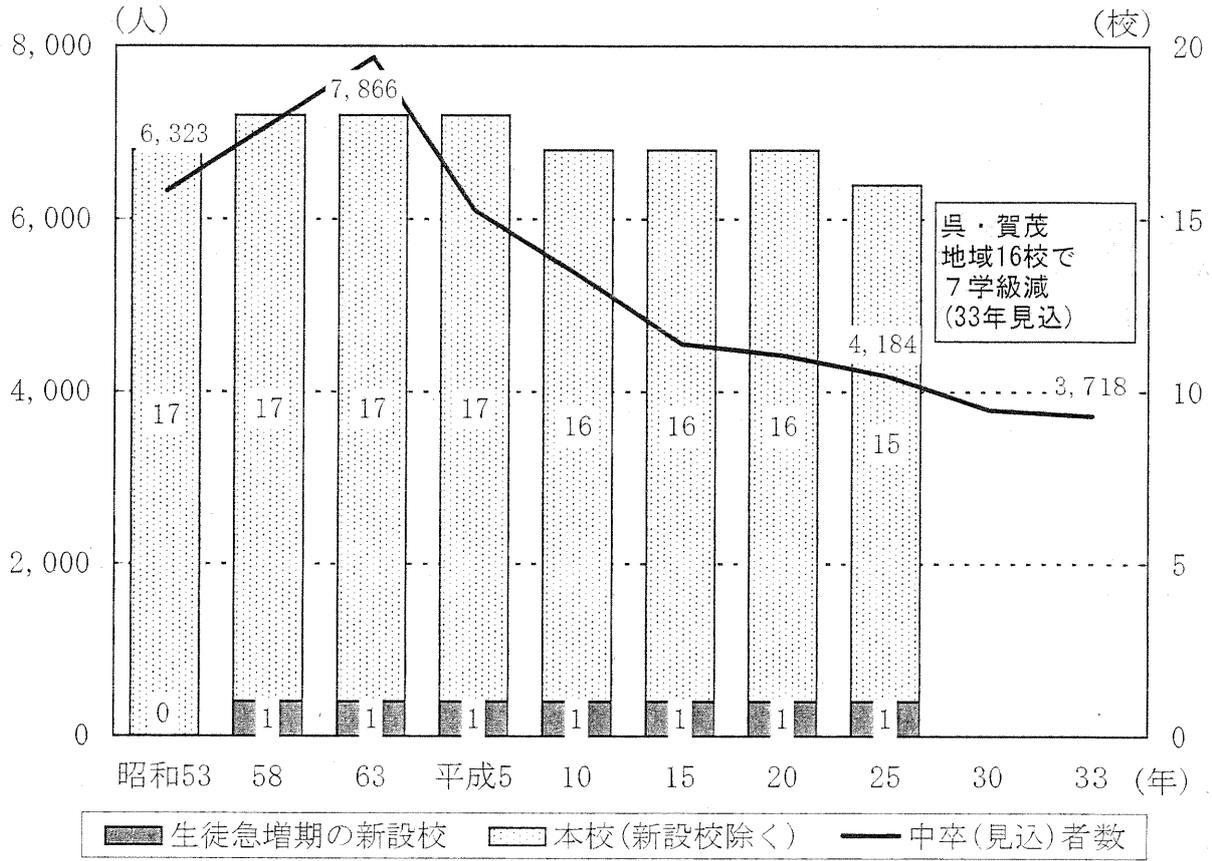
注 生徒急増期の新設校は次のとおり

[昭和49年]安芸, 五日市 [50年]安古市 [52年]高陽, 熊野 [53年]広島井口 [54年]安西
 [55年]安芸府中 [58年]廿日市西, 祇園北, 高陽東 [59年]市立安佐北 [60年]市立沼田
 [61年]安芸南 [63年]市立美鈴が丘

■ 広島地域の公立高等学校 1校当たりの平均学級数

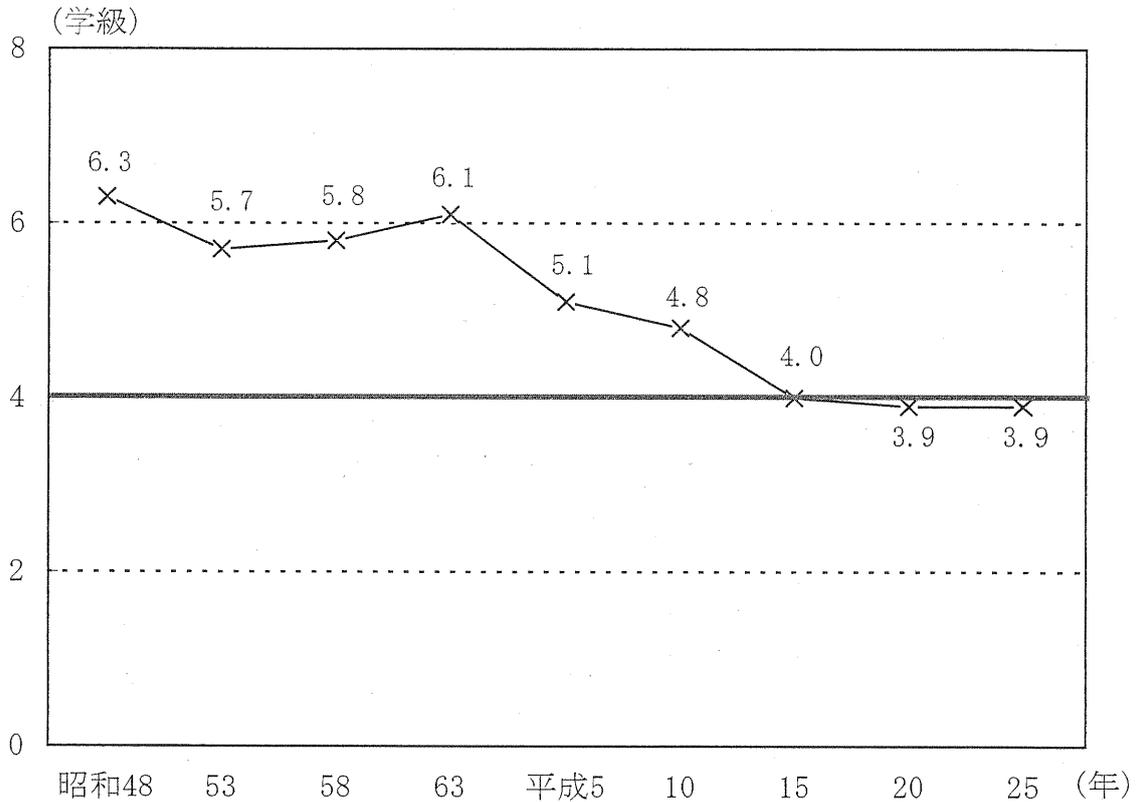


■ 呉・賀茂地域の公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の中卒(見込)者数の推移

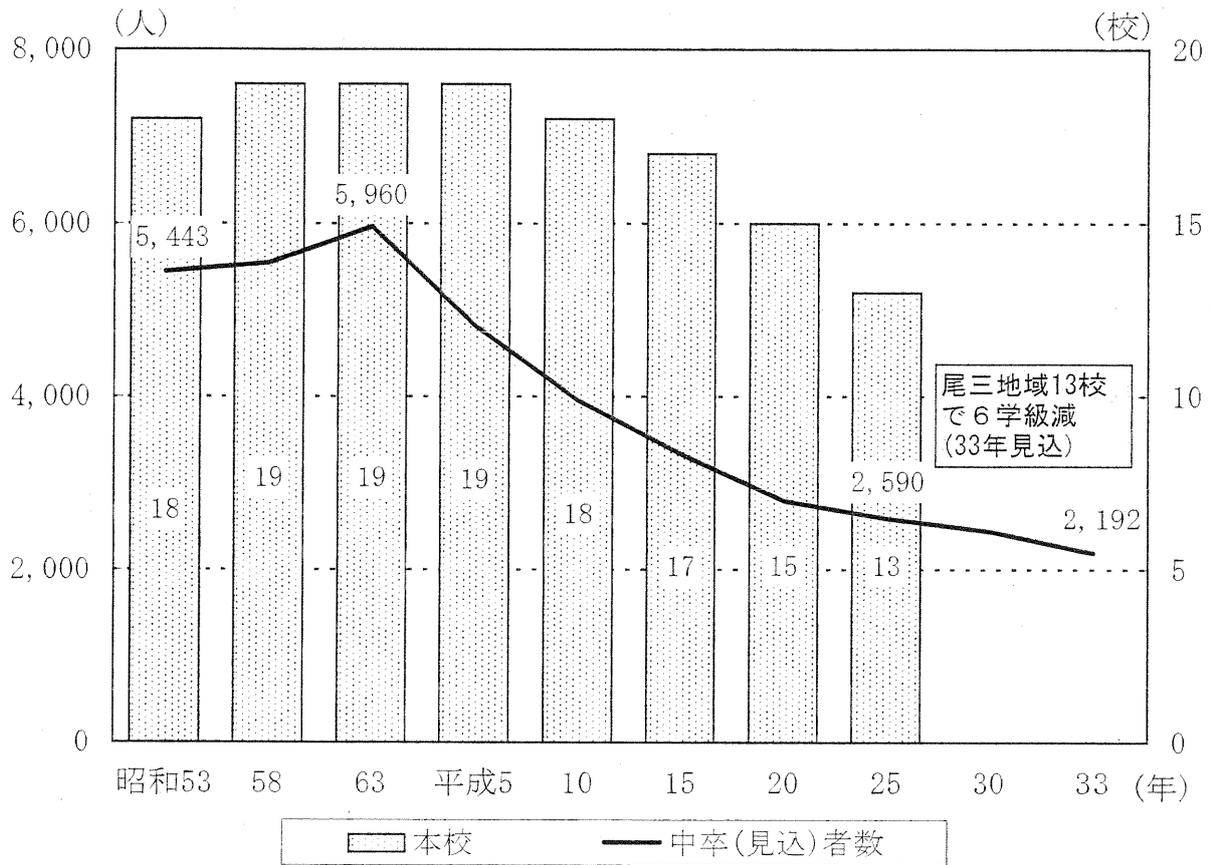


注 生徒急増期の新設校は次のとおり
[昭和58年] 呉昭和

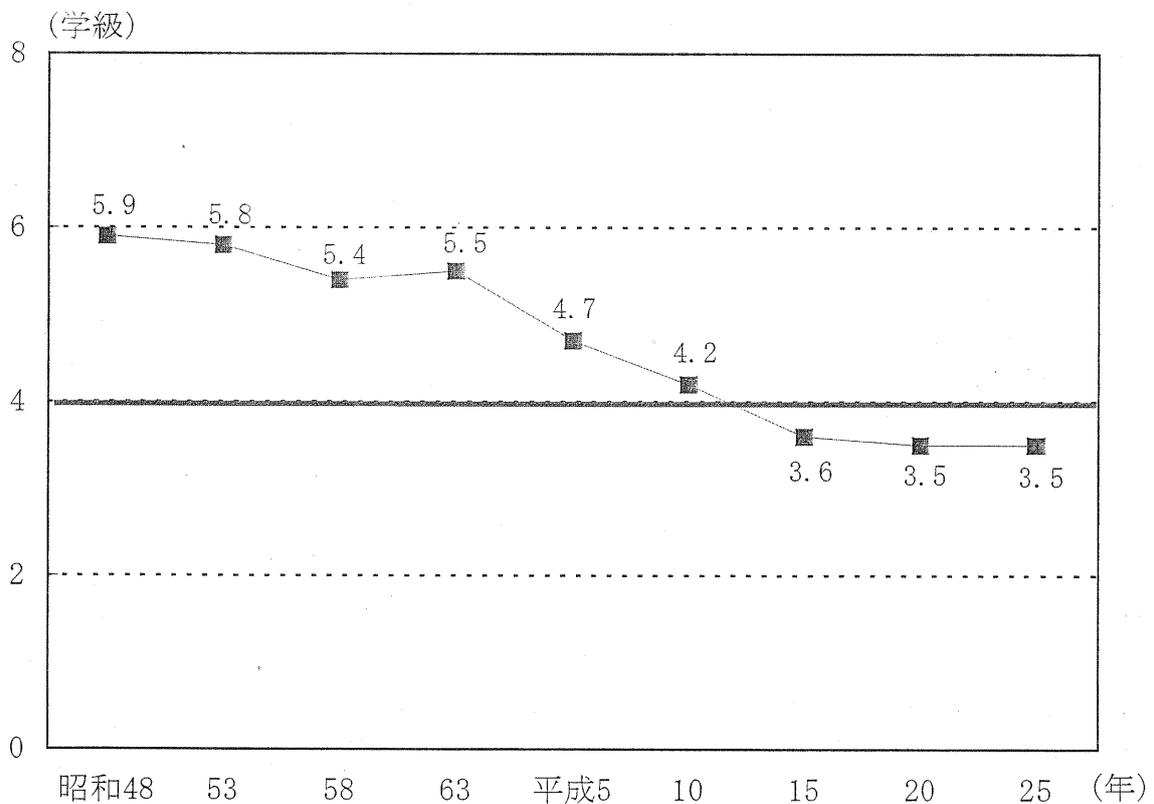
■ 呉・賀茂地域の公立高等学校 1校当たりの平均学級数



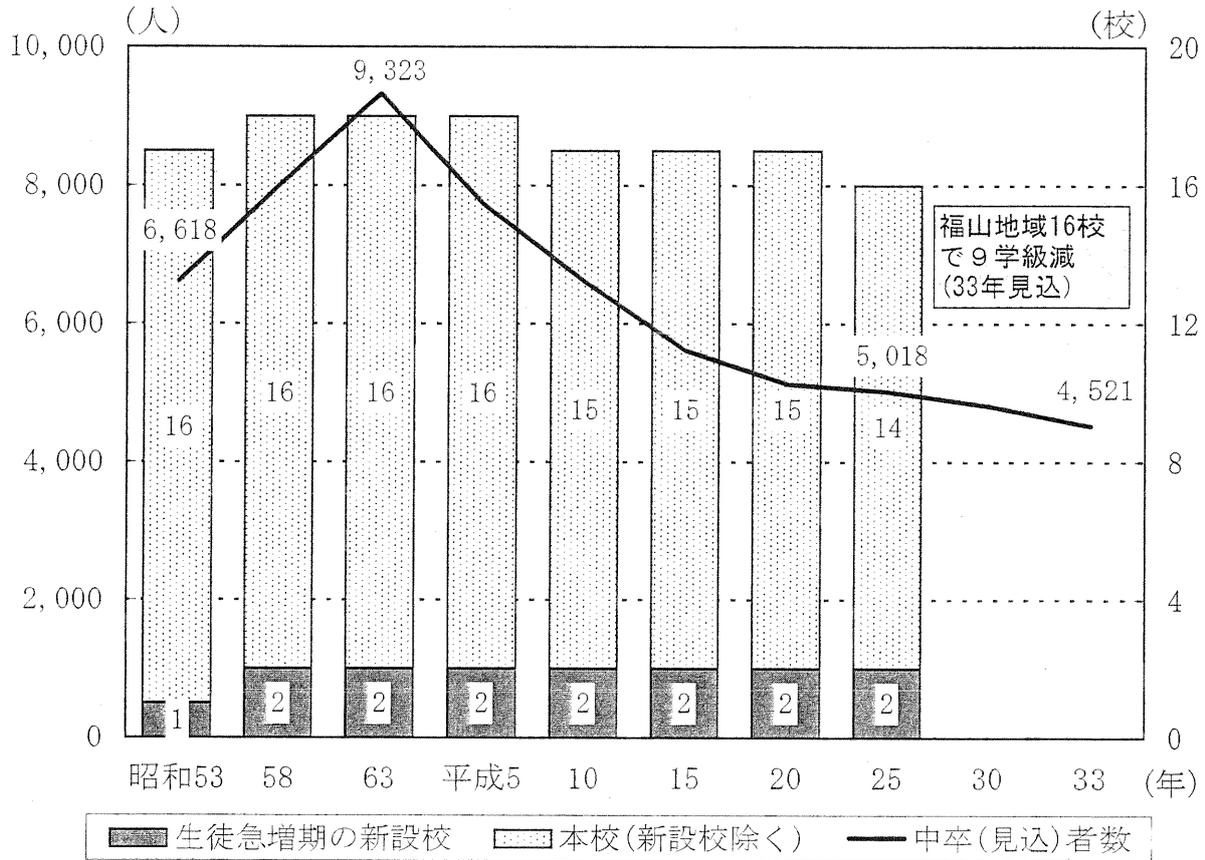
■尾三地域の公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の中卒(見込)者数の推移



■尾三地域の公立高等学校1校当たりの平均学級数

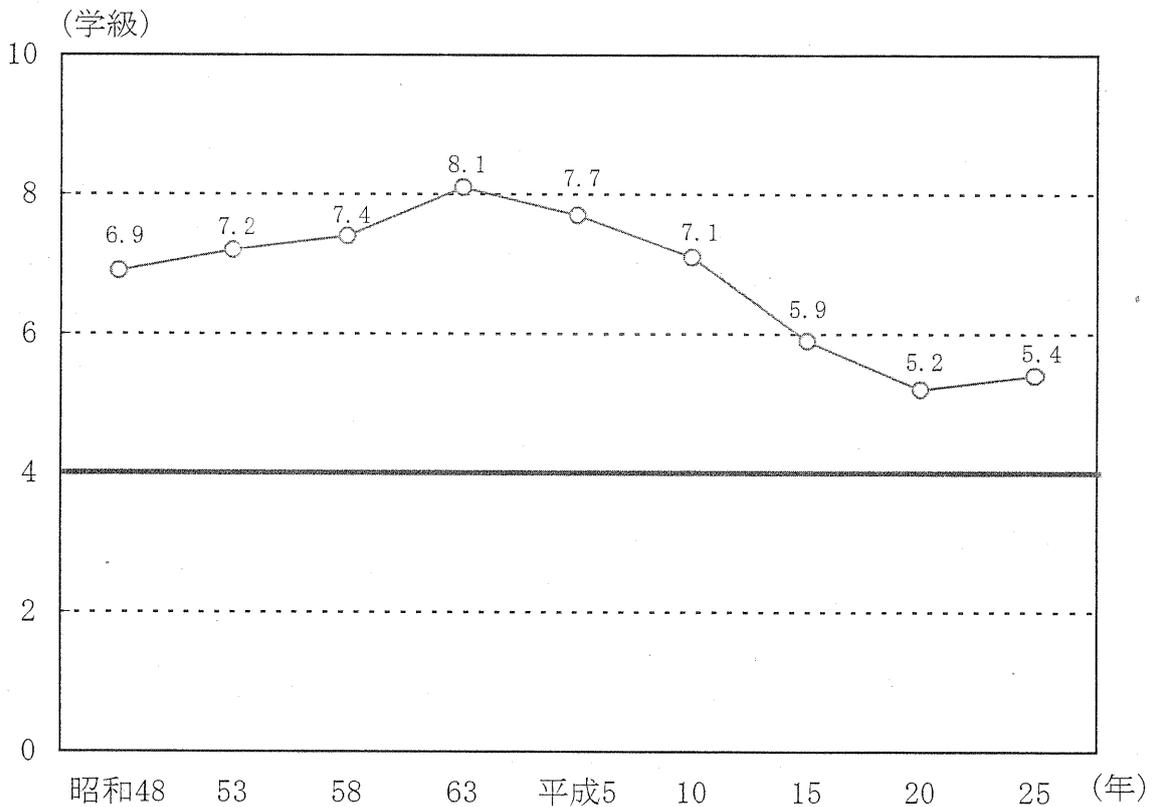


■福山地域の公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の中卒(見込)者数の推移

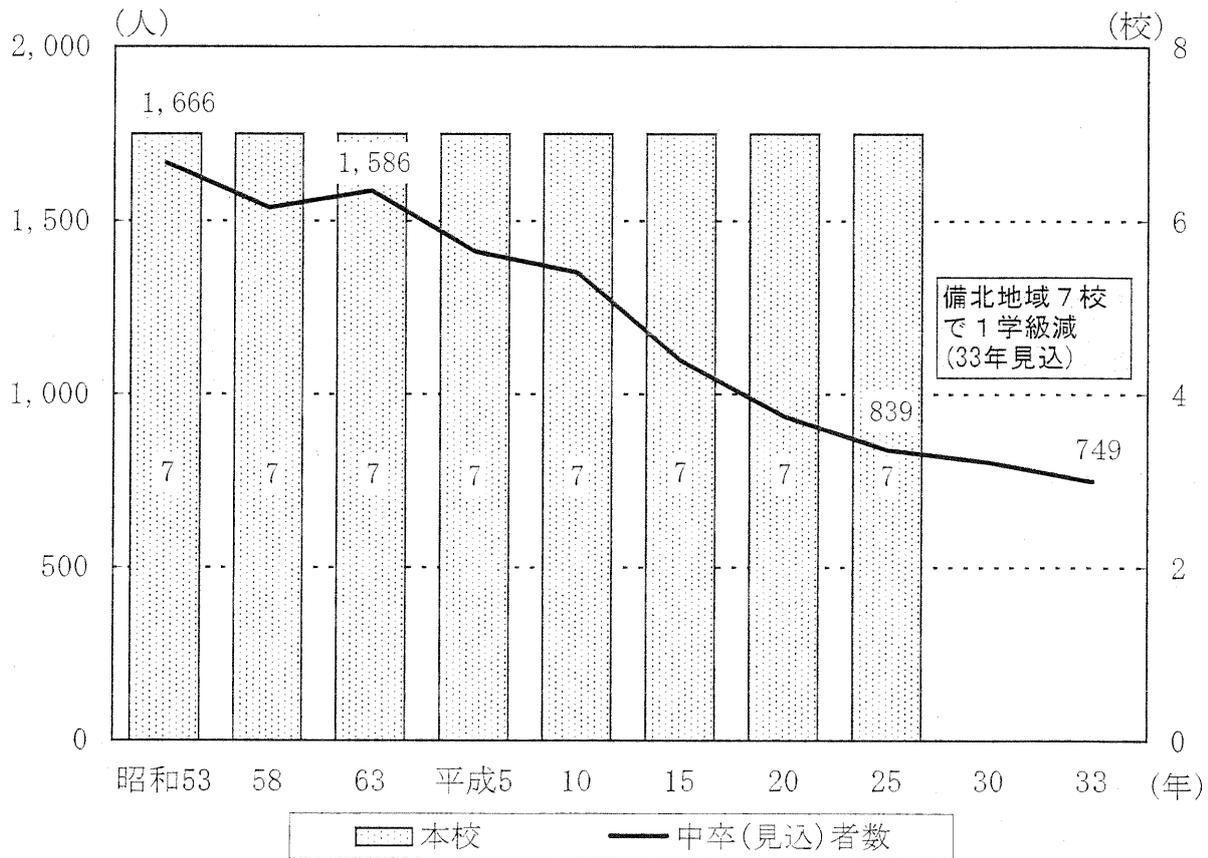


注 生徒急増期の新設校は次のとおり
 [昭和50年]大門 [55年]神辺旭

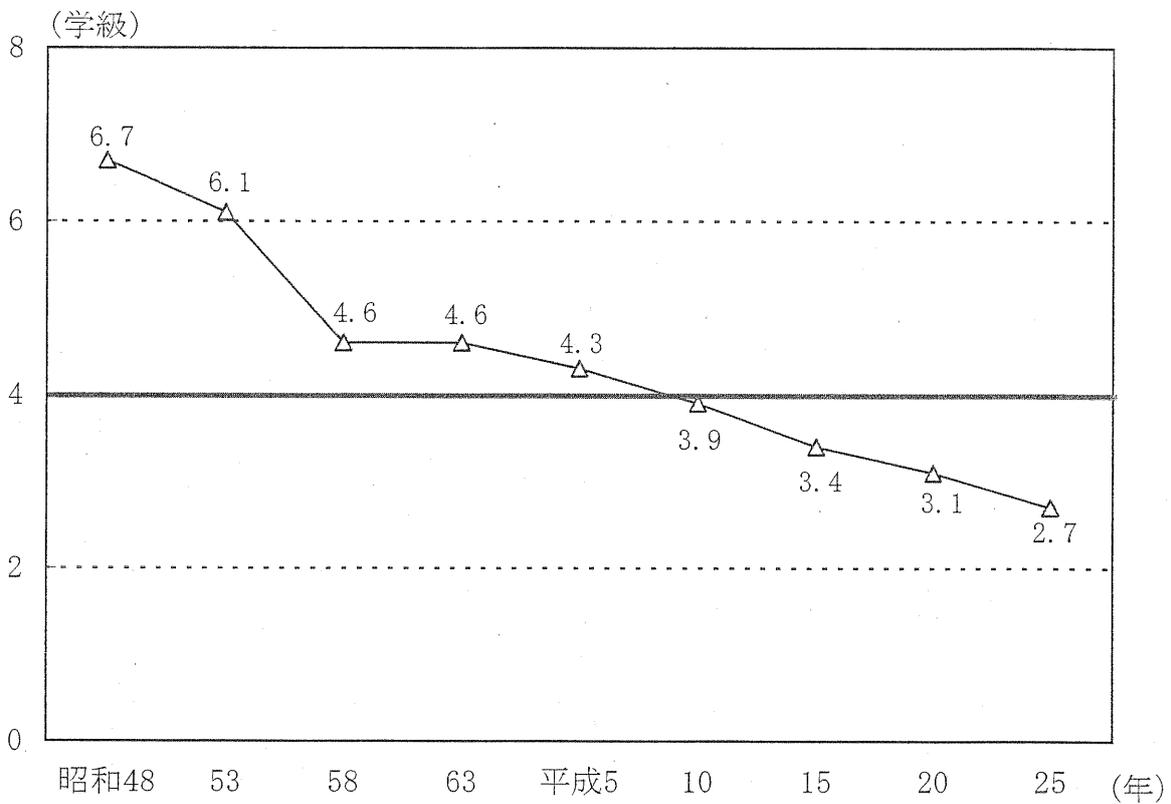
■福山地域の公立高等学校 1校当たりの平均学級数



■ 備北地域の公立高等学校の本校数及び国・公・私立学校の中卒(見込)者数の推移



■ 備北地域の公立高等学校1校当たりの平均学級数



■市郡別の中卒者数の推移（国・公・私立学校）

（単位：人）

| 旧学区 | 市郡 | 昭和53 | 58 | 63 | 平成5 | 10 | 15 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 芸北 | 安芸高田市 | 515 | 498 | 525 | 483 | 395 | 358 | 298 | 302 | 293 | 264 | 290 |
| | 山県郡2町 | 530 | 468 | 494 | 447 | 374 | 340 | 312 | 270 | 297 | 278 | 266 |
| 芸北 計 | | 1,045 | 966 | 1,019 | 930 | 769 | 698 | 610 | 572 | 590 | 542 | 556 |
| 広島 | 広島市 | 11,566 | 14,929 | 18,771 | 15,861 | 14,203 | 12,261 | 11,277 | 11,541 | 11,810 | 11,669 | 11,767 |
| | 大竹市 | 453 | 529 | 485 | 399 | 330 | 297 | 259 | 240 | 253 | 235 | 233 |
| | 廿日市市 | 773 | 1,126 | 1,483 | 1,466 | 1,480 | 1,238 | 1,129 | 1,123 | 1,174 | 1,066 | 1,105 |
| | 安芸郡4町 | 1,387 | 1,803 | 2,015 | 1,618 | 1,305 | 1,129 | 1,041 | 1,055 | 1,078 | 1,051 | 1,059 |
| 広島 計 | | 14,179 | 18,387 | 22,754 | 19,344 | 17,318 | 14,925 | 13,706 | 13,959 | 14,315 | 14,021 | 14,164 |
| 呉・賀茂 | 呉市 | 4,305 | 4,688 | 4,867 | 3,571 | 2,896 | 2,288 | 2,162 | 2,116 | 2,156 | 2,016 | 2,149 |
| | 東広島市 | 1,415 | 1,827 | 2,386 | 2,086 | 2,093 | 2,012 | 2,058 | 2,010 | 2,062 | 1,972 | 2,038 |
| | 江田島市 | 603 | 580 | 613 | 446 | 369 | 257 | 202 | 195 | 193 | 167 | 176 |
| 呉・賀茂 計 | | 6,323 | 7,095 | 7,866 | 6,103 | 5,358 | 4,557 | 4,422 | 4,321 | 4,411 | 4,155 | 4,363 |
| 尾三 | 竹原市 | 540 | 637 | 622 | 464 | 370 | 340 | 293 | 267 | 281 | 238 | 259 |
| | 三原市 | 1,665 | 1,661 | 1,891 | 1,621 | 1,396 | 1,211 | 984 | 963 | 1,003 | 921 | 1,015 |
| | 尾道市 | 2,656 | 2,719 | 2,910 | 2,287 | 1,836 | 1,493 | 1,255 | 1,311 | 1,262 | 1,206 | 1,202 |
| | 大崎上島町 | 258 | 242 | 207 | 149 | 99 | 69 | 64 | 61 | 44 | 56 | 48 |
| | 世羅町 | 324 | 283 | 330 | 299 | 252 | 222 | 199 | 162 | 177 | 167 | 132 |
| 尾三 計 | | 5,443 | 5,542 | 5,960 | 4,820 | 3,953 | 3,335 | 2,795 | 2,764 | 2,767 | 2,588 | 2,656 |
| 福山 | 福山市 | 5,569 | 6,966 | 8,177 | 6,803 | 5,886 | 5,001 | 4,638 | 4,469 | 4,633 | 4,447 | 4,528 |
| | 府中市 | 773 | 871 | 947 | 771 | 580 | 492 | 392 | 390 | 393 | 336 | 389 |
| | 神石高原町 | 276 | 169 | 199 | 161 | 148 | 126 | 101 | 106 | 95 | 84 | 78 |
| 福山 計 | | 6,618 | 8,006 | 9,323 | 7,735 | 6,614 | 5,619 | 5,131 | 4,965 | 5,121 | 4,867 | 4,995 |
| 備北 | 三次市 | 850 | 865 | 915 | 786 | 724 | 666 | 560 | 594 | 519 | 508 | 484 |
| | 庄原市 | 816 | 672 | 671 | 626 | 627 | 431 | 375 | 312 | 387 | 335 | 313 |
| 備北 計 | | 1,666 | 1,537 | 1,586 | 1,412 | 1,351 | 1,097 | 935 | 906 | 906 | 843 | 797 |
| 広島県 計 | | 35,274 | 41,533 | 48,508 | 40,344 | 35,363 | 30,231 | 27,599 | 27,487 | 28,110 | 27,016 | 27,531 |

資料 公立学校基本数

■市郡別の児童・生徒数（国・公・私立学校）

（平成24年度）

（単位：人、学級）

| 旧学区 | 市郡 | 児童・生徒数 | | | | | | | | | 公立学級（見込）数 | | |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|-----|-----|
| | | 中3(25) | 中2(26) | 中1(27) | 小6(28) | 小5(29) | 小4(30) | 小3(31) | 小2(32) | 小1(33) | 平成25 | 33 | 差引 |
| 芸北 | 安芸高田市 | 255 | 239 | 243 | 228 | 259 | 252 | 253 | 226 | 245 | 6 | 6 | 0 |
| | 山県郡2町 | 238 | 260 | 258 | 239 | 207 | 211 | 221 | 189 | 197 | 3 | 2 | ▲1 |
| 芸北 計 | | 493 | 499 | 501 | 467 | 466 | 463 | 474 | 415 | 442 | 9 | 8 | ▲1 |
| 広島 | 広島市 | 11,807 | 11,953 | 11,624 | 11,491 | 11,572 | 11,514 | 11,339 | 11,137 | 10,933 | 158 | 146 | ▲12 |
| | 大竹市 | 186 | 211 | 209 | 218 | 221 | 201 | 217 | 233 | 184 | 5 | 5 | 0 |
| | 廿日市市 | 1,064 | 1,093 | 1,004 | 1,123 | 1,079 | 1,027 | 1,029 | 982 | 1,005 | 22 | 21 | ▲1 |
| | 安芸郡4町 | 1,027 | 1,088 | 1,052 | 1,150 | 1,198 | 1,147 | 1,117 | 1,111 | 1,088 | 18 | 19 | 1 |
| 広島 計 | | 14,084 | 14,345 | 13,889 | 13,982 | 14,070 | 13,889 | 13,702 | 13,463 | 13,210 | 203 | 191 | ▲12 |
| 呉・賀茂 | 呉市 | 2,005 | 2,001 | 1,979 | 1,999 | 2,040 | 1,869 | 1,911 | 1,792 | 1,833 | 33 | 30 | ▲3 |
| | 東広島市 | 1,987 | 1,979 | 2,014 | 1,812 | 1,838 | 1,752 | 1,797 | 1,806 | 1,730 | 28 | 24 | ▲4 |
| | 江田島市 | 192 | 167 | 153 | 160 | 166 | 168 | 154 | 134 | 155 | 1 | 1 | 0 |
| 呉・賀茂 計 | | 4,184 | 4,147 | 4,146 | 3,971 | 4,044 | 3,789 | 3,862 | 3,732 | 3,718 | 62 | 55 | ▲7 |
| 尾三 | 竹原市 | 253 | 239 | 223 | 226 | 232 | 207 | 225 | 210 | 194 | 5 | 4 | ▲1 |
| | 三原市 | 913 | 965 | 936 | 862 | 878 | 866 | 879 | 845 | 781 | 15 | 13 | ▲2 |
| | 尾道市 | 1,220 | 1,141 | 1,132 | 1,237 | 1,207 | 1,182 | 1,209 | 1,095 | 1,047 | 21 | 18 | ▲3 |
| | 大崎上島町 | 57 | 43 | 53 | 41 | 49 | 53 | 37 | 34 | 37 | 1 | 1 | 0 |
| | 世羅町 | 147 | 132 | 111 | 148 | 155 | 134 | 122 | 131 | 133 | 4 | 4 | 0 |
| 尾三 計 | | 2,590 | 2,520 | 2,455 | 2,514 | 2,521 | 2,442 | 2,472 | 2,315 | 2,192 | 46 | 40 | ▲6 |
| 福山 | 福山市 | 4,573 | 4,603 | 4,591 | 4,552 | 4,599 | 4,416 | 4,423 | 4,362 | 4,139 | 74 | 67 | ▲7 |
| | 府中市 | 381 | 345 | 329 | 391 | 403 | 325 | 332 | 333 | 321 | 11 | 9 | ▲2 |
| | 神石高原町 | 64 | 81 | 62 | 81 | 68 | 72 | 53 | 61 | 61 | 2 | 2 | 0 |
| 福山 計 | | 5,018 | 5,029 | 4,982 | 5,024 | 5,070 | 4,813 | 4,808 | 4,756 | 4,521 | 87 | 78 | ▲9 |
| 備北 | 三次市 | 519 | 515 | 466 | 487 | 496 | 504 | 502 | 482 | 443 | 10 | 9 | ▲1 |
| | 庄原市 | 320 | 291 | 306 | 290 | 308 | 300 | 293 | 271 | 306 | 9 | 9 | 0 |
| 備北 計 | | 839 | 806 | 772 | 777 | 804 | 804 | 795 | 753 | 749 | 19 | 18 | ▲1 |
| 広島県 計 | | 27,208 | 27,346 | 26,745 | 26,735 | 26,975 | 26,200 | 26,113 | 25,434 | 24,832 | 417 | 382 | ▲35 |

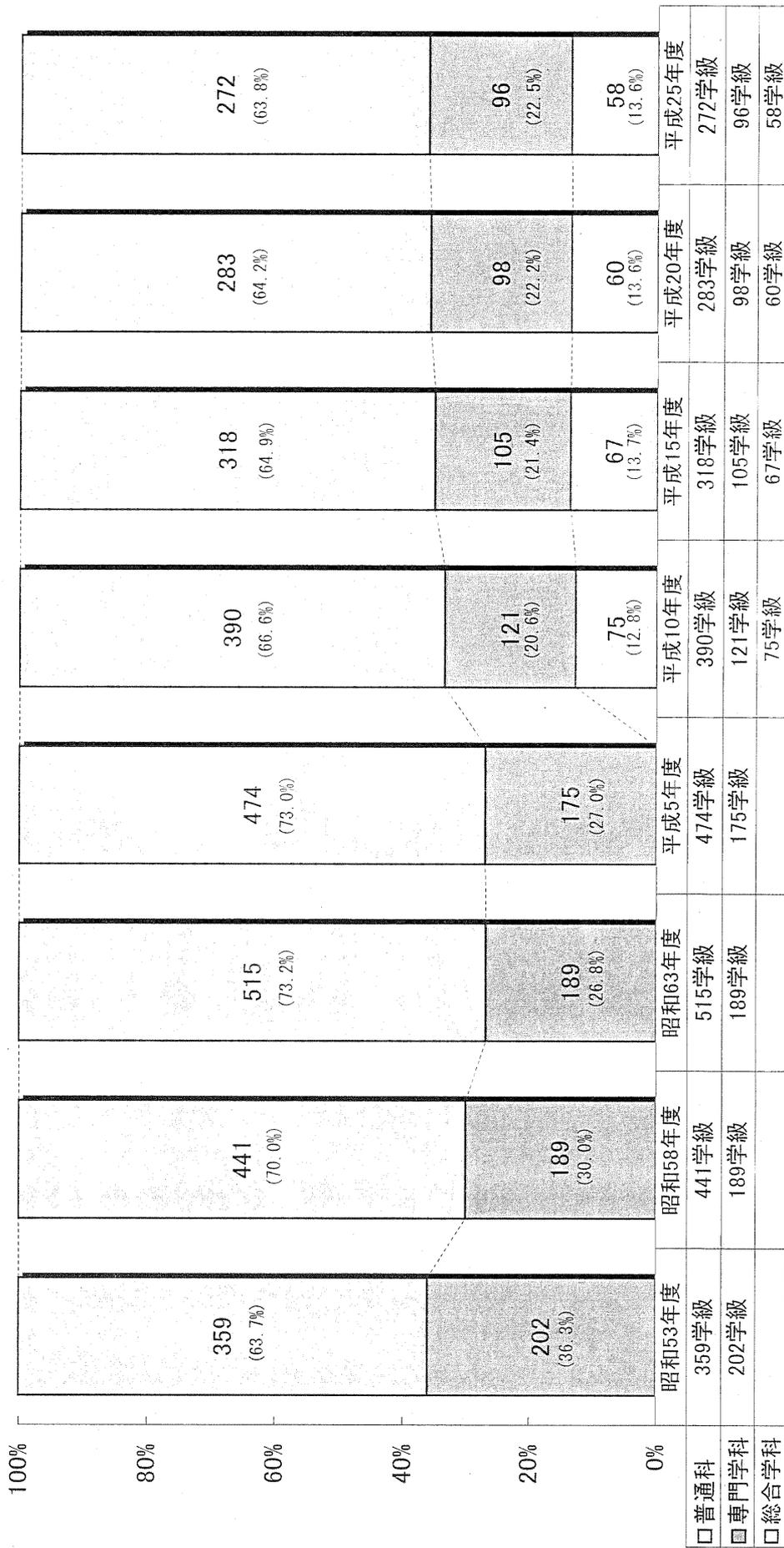
資料 公立学校基本数

注 公立学級（見込）数は、平成25年は入学定員の設定である。平成33年は次の数式で機械的に算出している。

平成33年学級（見込）数＝25年学級数×小学校1年生児童数（33年卒業見込）÷中学校3年生生徒数（25年卒業見込）

このため、国・私立中学校へ入学する生徒が多い市町については、学級（見込）数が大きく変わる可能性がある。

普通科, 専門学科, 総合学科の入学定員(学級数)の比率の推移 ~ 公立高等学校(全日制) ~



募集学級規模別1学年1～3学級規模の都道府県立高等学校数（平成24年度）

| 学級規模 | 学校数の区分 | 都道府県数 | 都道府県名 |
|-----------------|--------|-------|---|
| 1学級 (120校) | 20校以上 | 1 | 北海道37 |
| | 10～19校 | 1 | 広島11 |
| | 1～9校 | 24 | 福島8, 青森7, 山口6, 兵庫5, 山形4, 和歌山4, 熊本4, 大分4, 岩手3, 東京3, 島根3, 愛媛3, 長崎3, 秋田2, 長野2, 静岡2, 高知2, 宮城1, 新潟1, 富山1, 福井1, 愛知1, 三重1, 徳島1 |
| | 0校 | 21 | 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 神奈川, 石川, 山梨, 岐阜, 滋賀, 京都, 大阪, 奈良, 鳥取, 岡山, 香川, 福岡, 佐賀, 宮崎, 鹿児島, 沖縄 |
| 2・3学級 (235校) | 20校以上 | 6 | 北海道51, 鹿児島28, 岩手25, 福島25, 長野23, 愛媛21 |
| | 10～19校 | 17 | 新潟19, 秋田17, 山口17, 青森16, 宮城16, 兵庫16, 広島16 , 山形14, 長崎14, 群馬13, 静岡13, 島根13, 茨城11, 高知11, 佐賀11, 石川10, 熊本10 |
| | 1～9校 | 22 | 京都9, 徳島9, 岐阜8, 三重8, 大分8, 沖縄8, 千葉7, 富山7, 愛知7, 東京6, 宮崎6, 滋賀4, 奈良4, 鳥取4, 埼玉3, 福井2, 香川2, 山梨1, 大阪1, 和歌山1, 岡山1, 福岡1 |
| | 0校 | 2 | 栃木, 神奈川 |

(資料) 富山県教育委員会県立学校課調査

(注) 都道府県名の後の数字は、高等学校数である(分校を含む)。

平成24年度学級規模別の教諭等の状況

【単位：人】

| 学級規模 | 学校数 | 教諭等の 人数 | 1校当たりの 教諭等の人数 | 在籍生徒数 | 教諭等1人当 たりの生徒数 |
|------|-----|------------|------------------|--------|------------------|
| 1 | 11 | 103 | 9.4 | 971 | 9.4 |
| 2 | 8 | 145 | 18.1 | 1,469 | 10.1 |
| 3 | 8 | 201 | 25.1 | 2,184 | 10.9 |
| 4～8 | 52 | 2,420 | 46.5 | 37,648 | 15.6 |
| 計 | 79 | 2,869 | 36.3 | 42,272 | 14.7 |

(注)「教諭等の人数」は、平成24年度公立学校基本調査における「教諭・助教諭・講師」人数である。在籍生徒数は、平成24年5月1日現在の在籍生徒数である。

(注)学校数、教諭等の人数、在籍生徒数は、いずれも県立高等学校のみを集計した。

平成24年度学級規模別の部の状況

【単位：部、人】

| 学級規模 | 運動部 | | 文化部 | | 全体 | |
|------|------|-------|------|-------|------|-------|
| | 平均部数 | 平均部員数 | 平均部数 | 平均部員数 | 平均部数 | 平均部員数 |
| 1 | 6.0 | 7.9 | 4.1 | 9.1 | 10.1 | 8.4 |
| 2 | 9.8 | 9.0 | 6.8 | 10.2 | 16.5 | 9.5 |
| 3 | 13.2 | 8.8 | 7.6 | 10.7 | 20.9 | 9.5 |
| 4～8 | 20.3 | 16.9 | 12.4 | 16.2 | 32.7 | 16.6 |

平成24年度 学級規模別の教科, 科目別の教諭等の配置状況

○: 当該分野を専門とする教員を配置
 △: 教科の免許を有するが, 当該分野を専門としない教員を配置
 -: 当該分野の科目が設置されていない

■A校(1学級規模)

(単位: 人)

| 区分 | 教科 | 国語 | 地理・歴史 | | | 公民 | 数学 | 理科 | | | | 外国語 | 芸術 | | |
|-----|----|----|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 分野 | | 世界史 | 日本史 | 地理 | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | | 音楽 | 美術 | 書道 |
| 教諭等 | 人数 | 1 | 1 | | | 0 | 2 | 1 | | | | 2 | 2 | | |
| | 配置 | ○ | △ | 連携 | - | 連携 | ○ | △ | ○ | 連携 | - | ○ | 連携 | 連携 | - |

■B校(2学級規模)

(単位: 人)

| 区分 | 教科 | 国語 | 地理・歴史 | | | 公民 | 数学 | 理科 | | | | 外国語 | 芸術 | | |
|-----|----|----|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 分野 | | 世界史 | 日本史 | 地理 | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | | 音楽 | 美術 | 書道 |
| 教諭等 | 人数 | 3 | 1 | | | 1 | 2 | 3 | | | | 2 | 2 | | |
| | 配置 | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | 連携 | ○ | ○ | - | ○ | 連携 | 連携 | |

書は非常勤対応

■C校(3学級規模)

(単位: 人)

| 区分 | 教科 | 国語 | 地歴 | | | 公民 | 数学 | 理科 | | | | 外国語 | 芸術 | | |
|-----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 分野 | | 世界史 | 日本史 | 地理 | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | | 音楽 | 美術 | 書道 |
| 教諭等 | 人数 | 4 | 2 | | | 2 | 4 | 4 | | | | 5 | 2 | | |
| | 配置 | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 連携 | - | ○ | 連携 | ○ | |

書は非常勤対応

■D校(4学級規模)

(単位: 人)

| 区分 | 教科 | 国語 | 地理・歴史 | | | 公民 | 数学 | 理科 | | | | 外国語 | 芸術 | | |
|-----|----|----|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 分野 | | 世界史 | 日本史 | 地理 | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | | 音楽 | 美術 | 書道 |
| 教諭等 | 人数 | 4 | 3 | | | 1 | 6 | 4 | | | | 5 | 1 | | |
| | 配置 | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | | |

美・書は非常勤対応

■E校(6学級規模)

(単位: 人)

| 区分 | 教科 | 国語 | 地理・歴史 | | | 公民 | 数学 | 理科 | | | | 外国語 | 芸術 | | |
|-----|----|----|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 分野 | | 世界史 | 日本史 | 地理 | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | | 音楽 | 美術 | 書道 |
| 教諭等 | 人数 | 7 | 3 | | | 2 | 7 | 5 | | | | 11 | 2 | | |
| | 配置 | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | |

書は非常勤対応

■F校(8学級規模)

(単位: 人)

| 区分 | 教科 | 国語 | 地理・歴史 | | | 公民 | 数学 | 理科 | | | | 外国語 | 芸術 | | |
|-----|----|----|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 分野 | | 世界史 | 日本史 | 地理 | | | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | | 音楽 | 美術 | 書道 |
| 教諭等 | 人数 | 8 | 5 | | | 2 | 8 | 9 | | | | 8 | 3 | | |
| | 配置 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ |

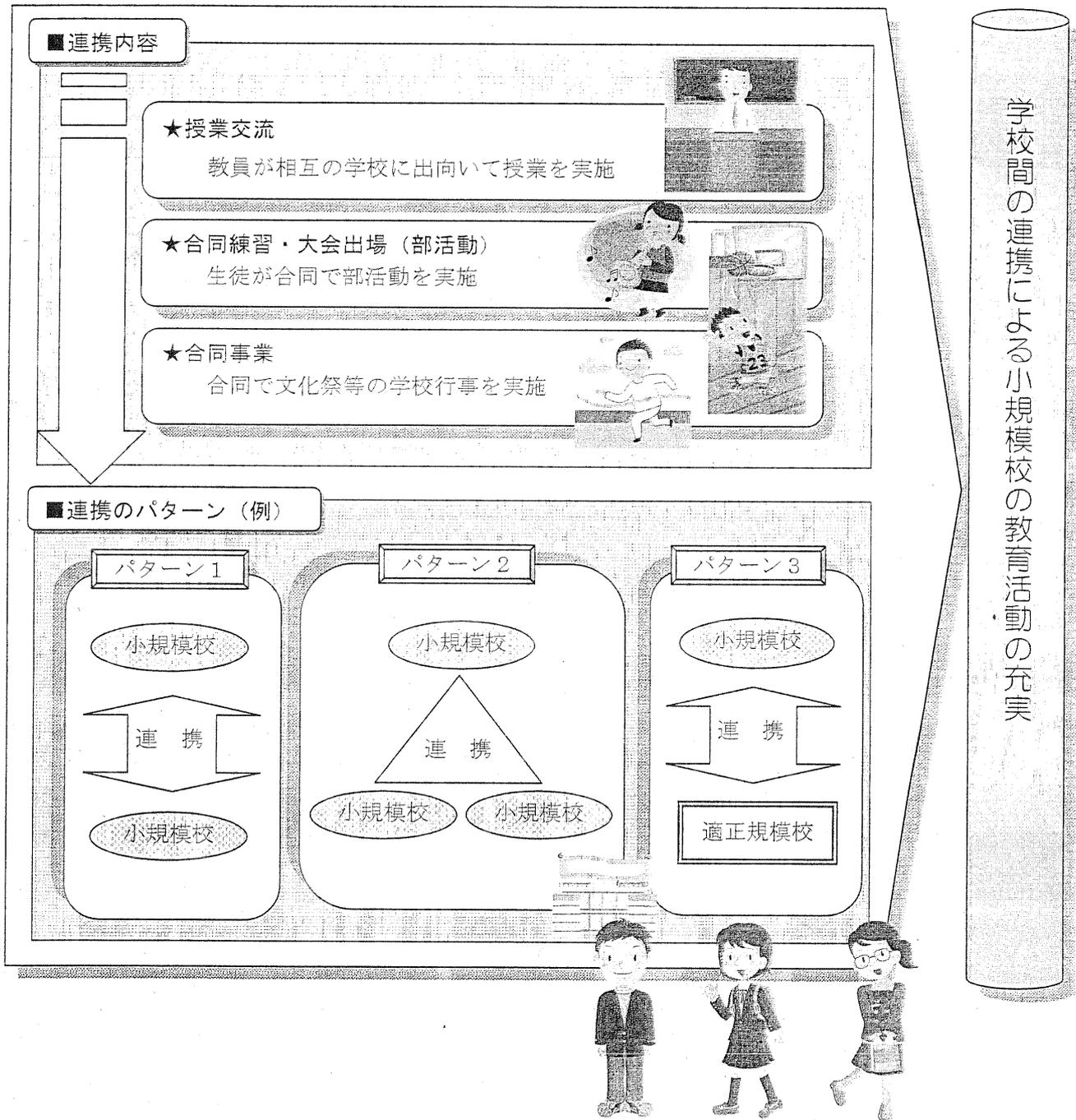
※配置の欄の「連携」は, 高等学校間連携の授業交流事業による兼務教員を意味する。
 ※「教員等」には, 臨時的任用・再任用の教員も含む。

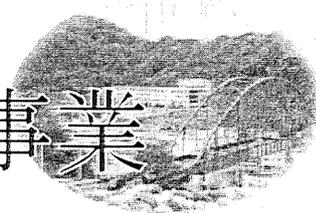
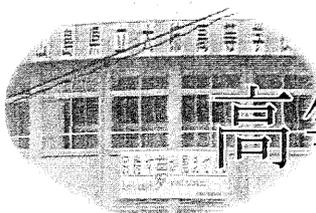
小規模県立高校間の連携推進事業

1 事業目的

小規模の県立高等学校（全日制）において、授業交流、部活動の合同練習、文化祭等の学校行事の合同実施などの学校間の連携を推進することにより、生徒の多様な学習ニーズへの対応や互いに切磋琢磨する機会の拡大など教育活動の充実を図る。

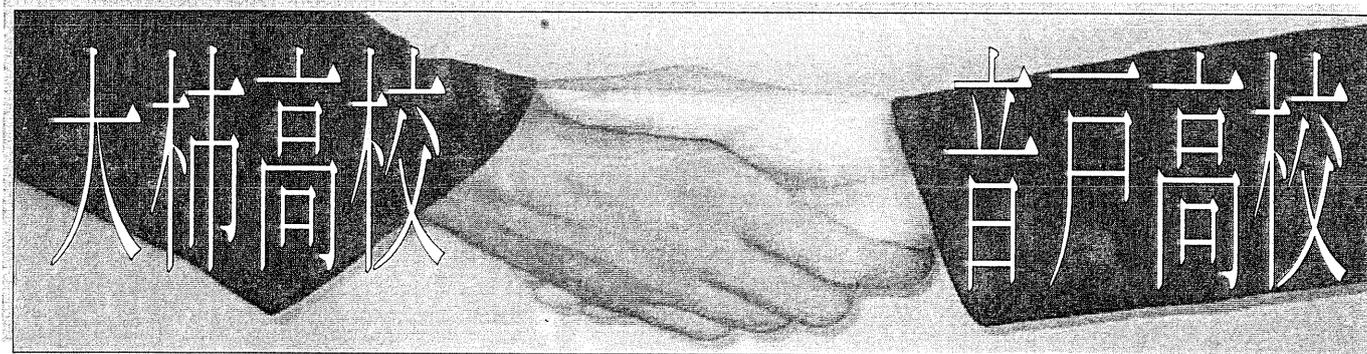
2 事業内容





高等学校間の連携推進事業

この事業は、1学年3学級規模以下の高等学校における教育活動の充実を図るため、(教員の授業交流、部活動の合同練習、学校行事の合同実施などの学校間の連携を進め、)授業の質の向上や、生徒が互いに切磋琢磨できる環境を整えることを目的とする取組です。



No. 1 授業交流

☞地歴公民☞



☞音楽☞



☞情報☞



No. 2 クラブ活動合同練習

☞ソフトテニス部☞



☞バスケット部☞



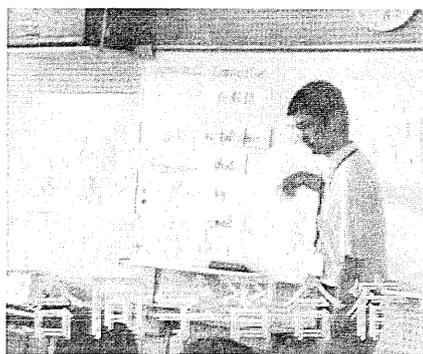
☞卓球部☞



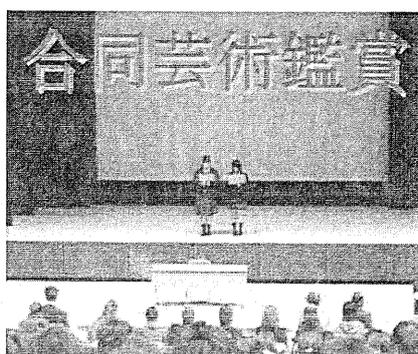
☞吹奏楽部☞



No. 3 合同事業



昨年度は合同学習合宿(1泊2日)を8月21日~22日に国立江田島青少年交流の家で行いました。今年度も8月17日~18日に同じく江田島青少年交流の家で行う予定です。

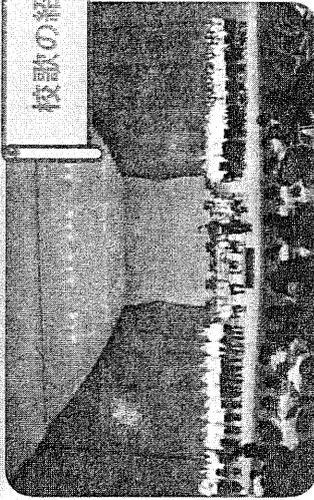


昨年度の合同芸術鑑賞は、11月21日に両校の全校生徒が音戸市民センターに集合して、映画『エクレール・お菓子放浪記』(文部科学省選定)を鑑賞しました。今年度は平成25年1月11日に海上自衛隊呉音楽隊を招いて行う予定です。

沼南高等学校との 学校間連携

沼南高校と合同で芸術鑑賞
を行いました。

校歌の紹介



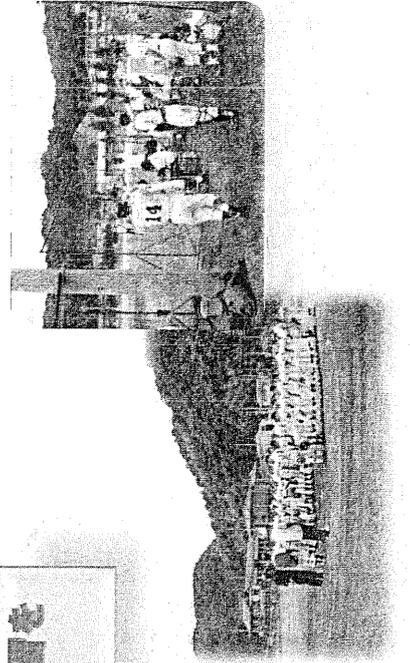
吹奏楽部の交流



昨年の芸術鑑賞は2校合同で広島交響楽団の演奏を聴きました。この中で吹奏楽部の演奏のもと、お互いの校歌を歌いました。

部活動も合同練習をしています。

野球部とバレーボール部では、昨年度合同練習を行い、技術の向上を図りました。本年度も継続して行っています。

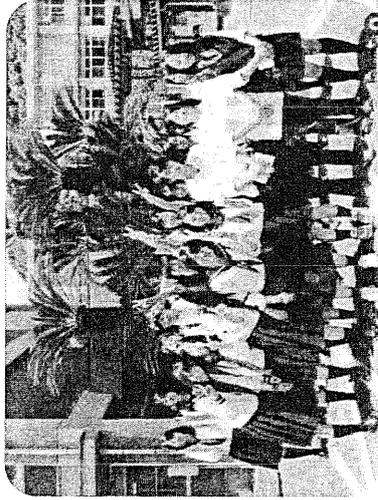


文化祭でお互いの学校紹介をしました。

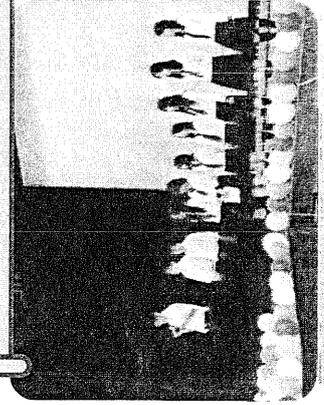


松永高校文化祭での交流

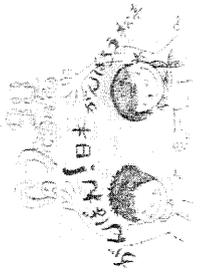
松永高校と沼南高校の交流として、お互いの生徒会が文化祭に訪問し学校紹介を行います。また、一緒に展示や催し物を見て親睦を深めています。



沼南高校の文化祭にも
行きました。



広島県立松永高等学校





東高通信 特別号



広島県立東城高等学校
平成24年12月10日(月)

学校間連携特集

東城高等学校・庄原格致高等学校・西城紫水高等学校

本校では、広島県教育委員会の指定により、平成24年度学校間連携推進事業を行っています。この事業は、1学年1から3学年級規模の県立高校の教育活動を充実するために行うものです。対象として、連携校の生徒がともに切磋琢磨する機会を得られるよう参加型の合同事業や、部活動の合同練習、連携校の教員が互いの学校へ出向いて授業を行う交流授業、その他連携校どうしが創意工夫をこらして行う独自の事業があります。

いずれの事業も大規模校に負けない充実した教育活動となるよう工夫されており、生徒からも高い評価を得ています。この『東高通信 特別号』では、事業の様子を紹介し、東城高校生のがんばっている姿を御覧いただければと思います。



授業交流

三校の教員が互いに連携校に出向いて授業することで、専門教科の教員の授業を受けることができます。



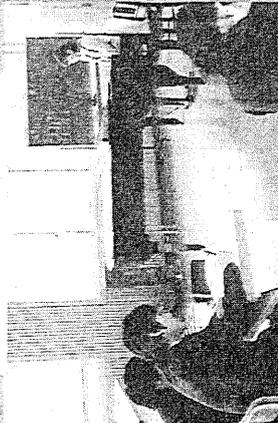
2年 物理 I



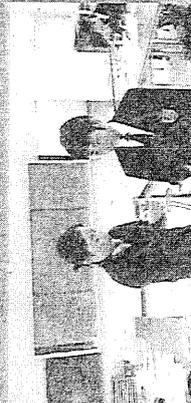
2年 生物 I



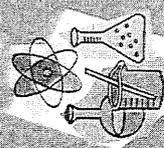
2年 化学 I



1年 音楽 I



1年 美術 I

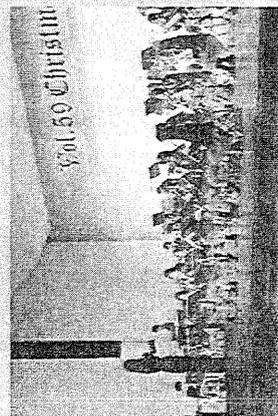
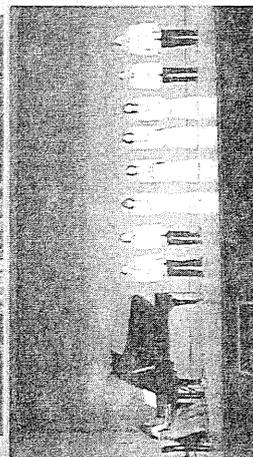




合唱行簿



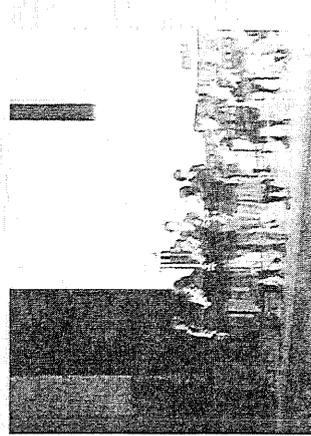
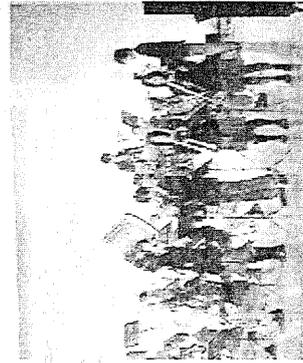
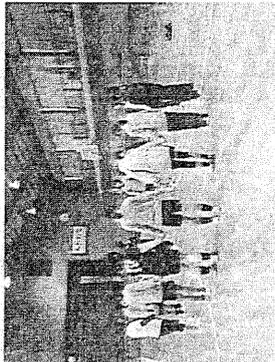
三校の生徒全員で、7口の劇団の芝居や合唱団の音楽を鑑賞すること、文化を味わい生徒同士の交流を深めています。12月には、クリスマスコンサート（成果発表）、8月には西城紫水高校と合同学習合宿も行っています。



副演習同機習



合同練習で、それまでできなかった紅白戦や7オームーション練習などができるようになりました。他校の生徒の技術に学ぶことも多く、大変有意義な機会となりました。



教職員定数の算定について

高校標準法に基づく標準定数は、公立高等学校及び特殊教育諸学校の高等部に置くべき都道府県又は市町村ごとの総数を算定するもの。都道府県又は市町村は、これを標準として、校長、教頭及び教諭等、養護教諭、実習助手、事務職員、特殊教育諸学校の教職員の定数を条例で定める。

高等学校

- 校長定数 学校数 × 1
- 教頭定数 収容定員が201人以上の課程数 × 1
- " " 681人以上複数学科設置課程数 × 1
- " " 921人以上の複数学科設置課程以外の課程数 × 1
- 教員 (1)～(6)の合計数
通信課程数 × 1

○教員 (1)～(6)の合計数
(1)

| 全日制 | | 定時制 | | 通信制 | | |
|-----------------------|--------|-----------------------|--------|--|-----------|--------|
| 収容定員が40人以下の課程の収容定員の総数 | ÷ 8 | 収容定員が40人以下の課程の収容定員の総数 | ÷ 8 | 生徒数が 1～600人 | ÷ 46.2 | |
| 41～80人 | ÷ 11.4 | 41～80人 | ÷ 11.4 | " | 601～1200人 | ÷ 66.7 |
| 81～120人 | ÷ 15 | 81～120人 | ÷ 15 | " | 1201人以上 | ÷ 100 |
| 121～240人 | ÷ 16 | 121～240人 | ÷ 18.5 | (注)各課程ごとに、生徒数を上記の各段階に区分して各段階ごとに算定した数を合計する。 | | |
| 241～280人 | ÷ 16.4 | 241～280人 | ÷ 19.3 | | | |
| 281～400人 | ÷ 17.1 | 281～440人 | ÷ 20.7 | | | |
| " | ∴ | " | ∴ | | | |

(2)習熟度別指導・少人数指導

全日制

定時制

| | | | |
|-------|-----------------|-------|----------------|
| 収容定員が | 321～560人の課程数×1 | 収容定員が | 441～920人の課程数×1 |
| “ | 561～680人 “ ×2 | “ | 921人以上 “ ×2 |
| “ | 681～1040人 “ ×3 | | |
| “ | 1041～1160人 “ ×4 | | |
| “ | 1161人以上 “ ×5 | | |

(3)通信制課程の大規模校加配

| | |
|------|------------------|
| 生徒数が | 2401～3000人の課程数×1 |
| “ | 3001～3600人 “ ×2 |
| “ | 3601人以上 “ ×3 |

(4)生徒指導担当(進路指導・教育相談担当)

全日制

定時制

通信制

| | | | | |
|-------|-----------------|-------|--------------|-------|
| 収容定員が | 681～1040人の課程数×1 | 収容定員が | 441人以上の課程数×1 | 課程数×1 |
| “ | 1041人以上 “ ×2 | | | |

(5)その他学科に応じた加算

その他に農・水・工に関する学科、商業・家庭に関する学科、情報に関する学科、美術・音楽・体育に関する学科、理数科、衛生看護科、福祉科、外国語関係学科・国際関係学科、総合学科のそれぞれの学科の収容定員等を考慮して個別に教員定数を加算。

(6)寄宿舎舎監定数

寄宿舎生徒数51人以上×1

| | | |
|---|--|---|
| <p>○養護教諭定数 収容定員が 81～800人の全日制課程数 (本校) × 1 " " 121～800人の定時制課程数 (本校) × 1 " " 801人以上の全日制・定時制課程数 (本校) × 2</p> | <p>○実習助手定数 収容定員が201～960人の全日制・定時制課程数 × 1 " " 960人以上 × 2</p> <p>その他に農・水・工に関する学科、商業・家庭に関する学科、情報学科、理数科、衛生看護科、自営者養成農業高校で半年以上の宿泊を伴う教育を行っている学校、総合学科のそれぞれの学科の収容定員等を考慮して個別に実習助手定数を加算。</p> | <p>○事務職員定数 全日制・定時制の課程数 × 1 + (収容定員が201人以上の課程の収容定員 - 200) ÷ 360 収容定員が441人以上の全日制・定時制課程数 × 1 農・水・工に関する学科の収容定員が201人以上の全日制・定時制課程数 × 1 通信制課程の生徒数 ÷ 400</p> <p>その他に総合学科、単位制校の収容定員等を考慮して個別に事務職員定数を加算。</p> |
|---|--|---|

加配定数

教科の特性等に応じた少人数指導を行う場合、教育上特別の配慮を必要とする生徒に特別の指導を行う場合、多様な教育を行うための教育課程を編制する場合（大規模校、単位制校、修業年限弾力化校、職業系の類型・コース開設校、多様な教科・科目開設校）、教職員が長期の研修を受けている場合、学校において教育指導の改善のための研究が行われている場合には、上記により算定された定数に、文部科学大臣が定める数を加える。

高等学校（全日制普通科）

（単位：人）

| 収容定員 （学級数） | 校長 | 教頭 | 教 | | | | 諭 | | | 事務職員 | 合計 |
|-----------------|----|-----------|----|------|------|-----------|------------|------------|-----------|------|-------------|
| | | | 校 | 教科担任 | 生徒指導 | 習熟度・少人数授業 | 小計 | 教員計 | 養護教諭 | | |
| 120 (3学級) | 1 | — | 8 | — | — | — | 8 | 9 | 1 | — | 11 |
| 240 (6学級) | 1 | 1 | 15 | — | — | — | 15 | 17 | 1 | 1 | 21 |
| 360 (9学級) | 1 | 1 | 22 | — | — | 1 | 23 | 25 | 1 | 1 | 29 |
| 480 (12学級) | 1 | 1 | 28 | — | — | 1 | 29 | 31 | 1 | 1 | 36 |
| 600 (15学級) | 1 | 1 | 33 | — | — | (+1) 2 | 35 | (+1) 37 | 1 | 1 | (+1) 43 |
| 720 (18学級) | 1 | 1 | 39 | 1 | — | (+1) 3 | (+1) 43 | (+1) 45 | 1 | 1 | (+1) 51 |
| 840 (21学級) | 1 | 1 | 44 | 1 | — | (+1) 3 | (+1) 48 | (+1) 50 | (+1) 2 | 1 | (+2) 57 |
| 960 (24学級) | 1 | (+1) 2 | 48 | 1 | — | (+1) 3 | (+1) 52 | (+2) 55 | (+1) 2 | 1 | (+3) 63 |
| 1,080 (27学級) | 1 | (+1) 2 | 53 | 2 | — | (+2) 4 | (+2) 59 | (+3) 62 | (+1) 2 | 2 | (+4) 71 |
| 1,200 (30学級) | 1 | 2 | 58 | 2 | — | (+2) 5 | (+2) 65 | (+2) 68 | 2 | 2 | (+2) 77 |
| 1,320 (33学級) | 1 | 2 | 63 | 2 | — | (+2) 5 | (+2) 70 | (+2) 73 | 2 | 2 | (+2) 83 |
| 1,440 (36学級) | 1 | 2 | 69 | 2 | — | (+2) 5 | (+2) 76 | (+2) 79 | 2 | 2 | (+2) 89 |
| 1,560 (39学級) | 1 | 2 | 75 | 2 | — | (+2) 5 | (+2) 82 | (+2) 85 | 2 | 2 | (+2) 95 |
| 1,680 (42学級) | 1 | 2 | 80 | 2 | — | (+2) 5 | (+2) 87 | (+2) 90 | 2 | 2 | (+2) 101 |

※ 他に①職業系の類型・コースを開設している学校、②多様な教科・科目を開設する学校、③外国語等の少人数指導
 ※ () 書きの数は、第6次改善計画による増加分で内数
 ※ ④生徒指導・進路指導（高校中退対策）、⑤生徒の心身の健康への適切な対応を行う学校（養護教諭等）の定数加配あり